世界畫報

昭和九年 五月一日發行

五月號

第十卷 第五號

大正十五年十一月十日第三種郵便物認可 毎月一回一日發行
昭和九年四月二十日印刷納本 昭和九年五月一日發行

東京 國際情報社 發行

世界畫報 第十巻 第五號

表紙

原色版口繪

函館市の大火

單色版

內外時事

海外ニュース

滿洲通信

本號表紙解說

瑞典エーレブロ市の古城(表)

エーレブロ市はスウエーデンの首都ストックホルムの西方百哩のヒエルマル湖の西端にある都會で長い間スウエーデン議會の開催された所です。揭出の古城は、同市を流れるスパルタ、エルフ川の中に建てられたもので、現在は博物館になつてゐます。

新京に於ける春季孔子祭(裏)

大聖賢孔子を祭る春季孔子祭は、三月十七日午前七時から新京城內の孔子廟で溥儀皇帝代理鄭孝胥國務總理主催の下に、各部大臣、各參議以下多數要人參列して、古式に則つて嚴かに執行されました。寫眞は古式な舞生の舞です。

明治神宮壁畫集

連續揭載 特別附錄

不世出の英傑に在した明治大帝の御聖德御鴻業を奉頌し奉り、併せて皇后宮の御坤德を顯揚して、これを萬代に傳へんとする明治神宮聖德記念繪畫館に奉揭の壁畫は、現代畫壇の巨匠が各々その心血を罩めて謹毫したものであります。本誌は、昭和五年の新年號から左に揭げた通りこれを連續揭載して、各方面から絕大の賞讚を得て居ります。こゝしばらく中絕の形にありますが、其の後の壁畫は目下各擔當畫伯に於て謹毫中ですから、出來次第に次々に揭載する豫定であります。御期待下さい。

◇昭和五年度◇

新年號 日露役旅順開城 荒井陸男畫伯筆
二月號 歌御會始 山下新太郎畫伯筆
　日露役奉天戰 鹿子木孟郎畫伯筆
三月號 熊本籠城 近藤樵仙畫伯筆
　五箇條御誓文 乾南陽畫伯筆
四月號 大婚廿五年祝典 長谷川昇畫伯筆
　凱旋觀兵式 小林萬吾畫伯筆
五月號 下關講和談判 永地秀太畫伯筆
　日露役日本海々戰 中村不折畫伯筆
六月號 東京慈惠病院行啓 滿谷國四郎畫伯筆
　皇后宮田植御覽 近藤樵仙畫伯筆
　臺灣鎮定 石川寅治畫伯筆
八月號 琉球藩設置 山田眞山畫伯筆
　不豫 田邊至畫伯筆
九月號 日韓合邦 辻永畫伯筆
　廣島大本營御親裁 南薫造畫伯筆
十月號 凱旋觀艦式 東城鉦太郎畫伯筆
　赤十字總會行啓 湯淺一郎畫伯筆
十一月號 御元服 伊東紅雲畫伯筆
　華族女學校行啓 跡見泰畫伯筆

◇昭和六年度◇

新年號 靖國神社行幸 清水良雄畫伯筆
　教育勅語下賜 安宅安五郎畫伯筆
二月號 習志野之原演習行幸 小山榮達畫伯筆
　山形秋田巡幸鑛山御覽 五味清吉畫伯筆
三月號 岩倉邸行幸 北蓮藏畫伯筆
　農民收穫御覽 森村宜稻畫伯筆
四月號 樞密院憲法會議 五姓田芳柳畫伯筆
　廣島豫備病院行啓 石井柏亭畫伯筆
五月號 踐祚 川崎小虎畫伯筆
　憲法發布觀兵式行幸啓 片多德郎畫伯筆
七月號 德川邸行幸 木村武山畫伯筆
八月號 地方官會議監御 磯田長秋畫伯筆
九月號 王政復古 島田墨仙畫伯筆
十月號 大總督熾仁親王京都御進發 高取稚成畫伯筆
十一月號 陸海軍大演習御統監 長原坦畫伯筆

◇昭和七年度◇

新年號 立親王宣下 橋本永邦畫伯筆
二月號 ポーツマス講和談判 白瀧幾之助畫伯筆
五月號 北海道巡幸屯田兵御覽 高村眞夫畫伯筆
六月號 廢藩置縣 小堀鞆音畫伯筆
七月號 軍人勅諭下賜 寺崎武男畫伯筆

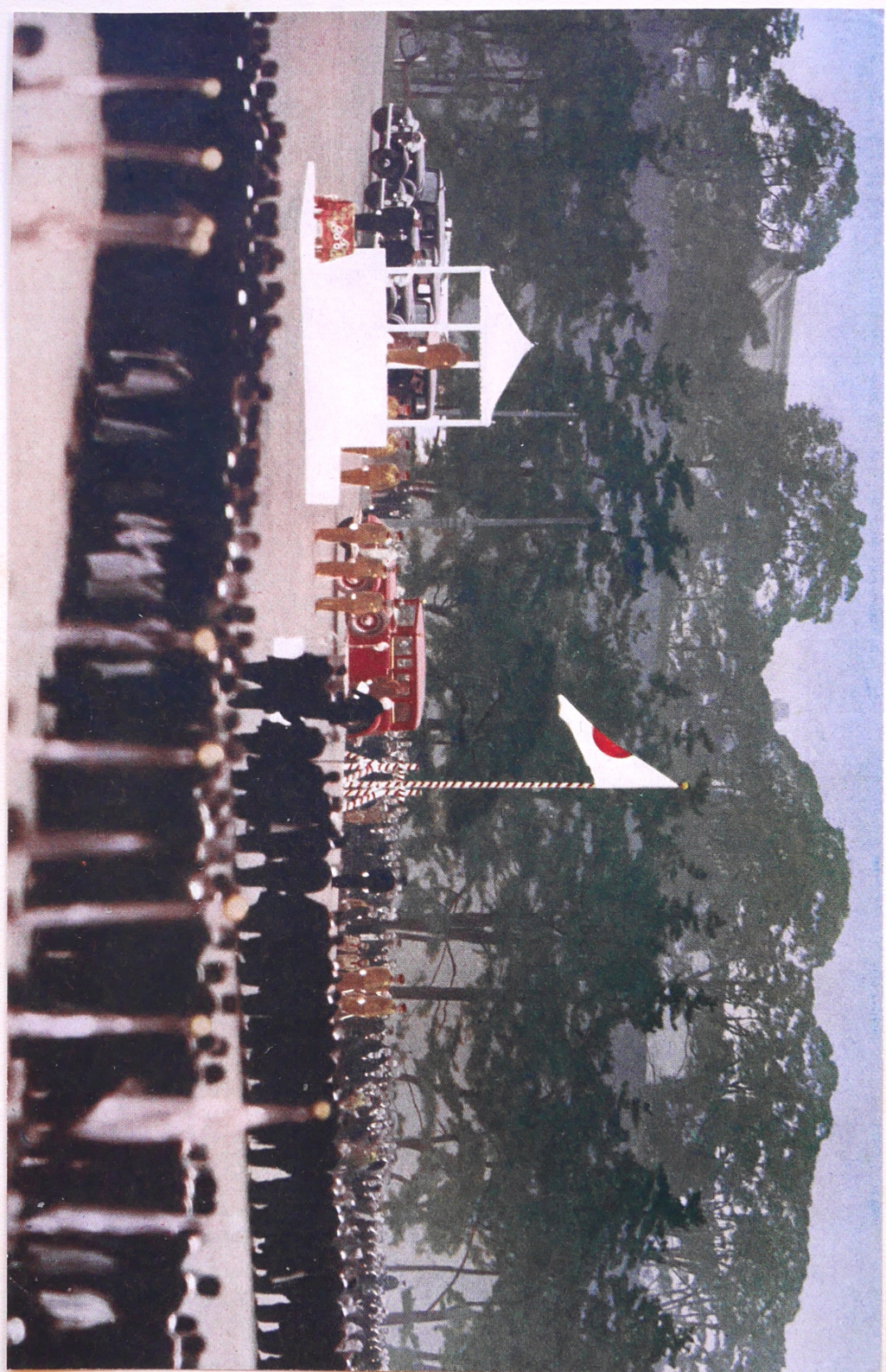
◇昭和八年度◇

三月號 樺太國境劃定 安田稔畫伯筆
九月號 鳥羽伏見戰 松林桂月畫伯筆

初めて拝する皇太子殿下御尊影
（宮内省御貸下寫眞）

櫻を日本の花として敬愛する會が生れ、最近國華日も制定されたと云ふ話がありますが、これは大へん結構な事だと思ひます。パッと咲いてパッと散る――とか、流行唄の歌詞にまで謳はれる、彼の男らしさ、美しさは日本の花として、世界に誇る可き價値が充分にある。と同時に、白扇逆まにかゝる靈峰富士の純潔そのものゝ如き美觀が、世界に誇る可き事はすでに言を俟たぬ所です。富士を國嶽として仰愛するくはだてはどんなものでせう。古來歌に詠まれ詩に謳はれた富士と櫻は實に我が國民精神の表徴と云ふ可きです。（寫眞は、富士山西麓、大宮町淺間神社の櫻花と靈峰富士）

天皇陛下の御親閲を仰いで

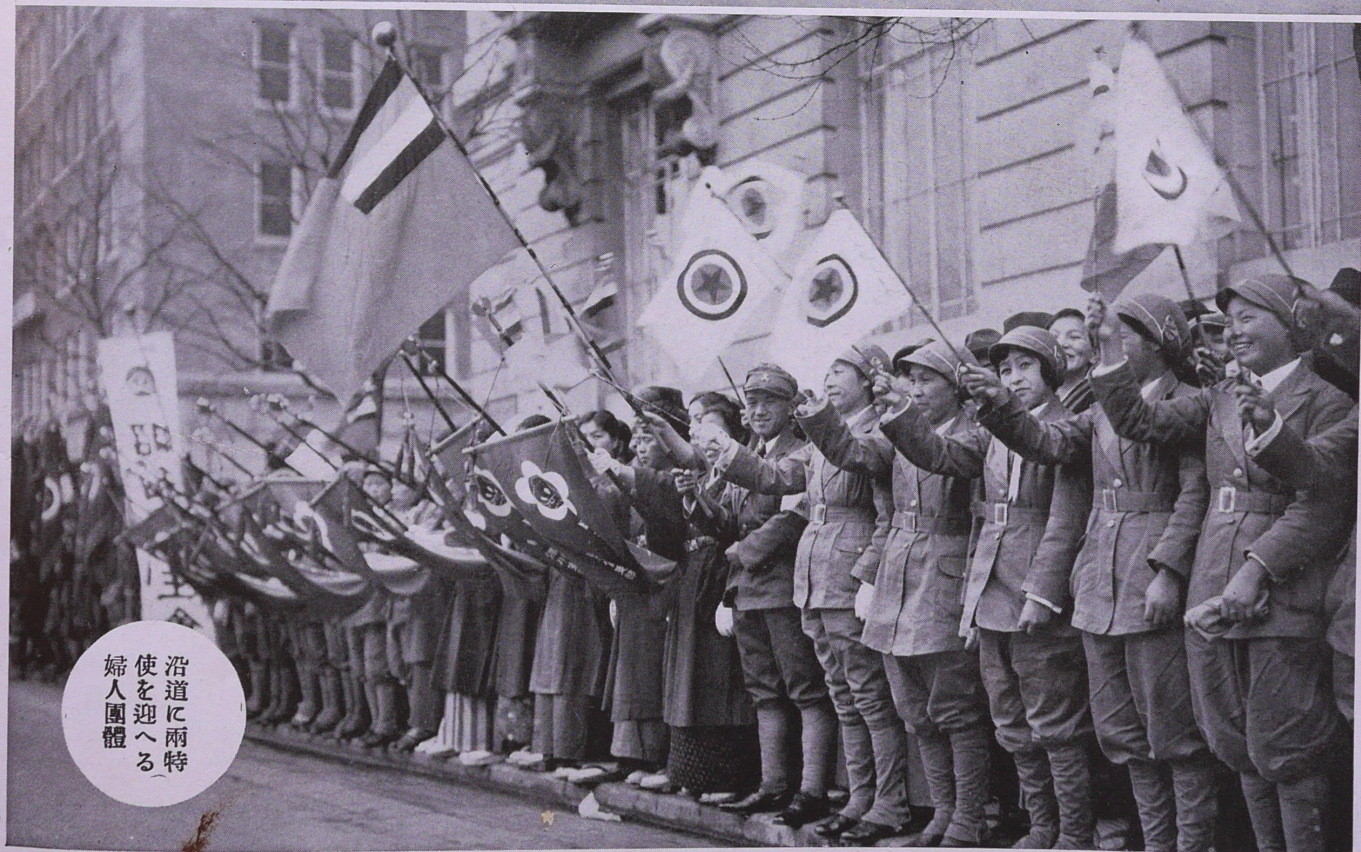
—全國小学教員精神作興大会—

滿洲建國以來の我が日本の協力援助に對し深厚な謝意を表明すると共に、將來益々兩國國交を厚うする爲めに派遣された滿洲帝國修聘特使——正使國務總理大臣鄭孝胥、副使財政部大臣熙洽の兩氏——は、康德皇帝より我が天皇陛下に奉る御親書を捧持して、三月廿一日午前九時特別列車で新京を出發、廿五日神戸入港のうらる丸で來朝、畏くも國賓として遇せられて、同日午後零時廿五分三宮發の特別宮廷列車で東上、廿六日午前九時廿五分東京驛著入京した。ホームには戸山學校軍樂隊、儀仗兵一個中隊が堵列して場内を固め、特旨を拜して出迎への湯淺宮相、廣田外相、林式部長官、牛塚東京市長、香坂東京府知事をはじめ、滿洲國公使丁士源氏、林滿鐵總裁以下朝野の名士多數出迎へた。寫眞は東京驛頭において特旨を拜して出迎への湯淺宮相以下に挨拶する兩特使

日滿親善の楔　滿洲國特使來朝

宿舍へ向ふ鄭特使

日滿兩國の親善融和いよ〱親厚を加へるの時、滿洲帝國皇帝陛下は、我が日本帝國が滿洲建國以來寄せた好意に謝意を表する爲め、我が天皇陛下に對し奉り、遙かに修聘特使として重臣、國務總理大臣鄭孝胥、財政部大臣熙洽の兩氏を御差遣遊ばされた。これによつて日滿兩國の親睦は更に〱密睦を重ね、兩國の親交は鐵鎖で結ばれたもので、まことに感激切々たるものがある。別掲の如く兩特使ば神戸着と共に帝室の國賓として遇せられ、三月廿六日朝東京驛著入京した。驛には宮中差廻しの儀裝馬車が兩特使を待ちうけ鄭特使は黑田接伴員と、熙特使は醍醐接伴員と夫々同乘、隨員は五臺の馬車に分乘して堂々七臺の馬車を連れ、近衛騎兵の儀仗兵に守られつゝ、沿道市民の萬歲の聲に應へながら宿舍帝國ホテルに入つた。

帝國ホテルに落付いた兩特使は、午前十一時各接伴員に導かれつゝ宮中差廻しの自動車で宮城に參內、入京記帳をなして退下、續いて各宮邸に夫々伺候、同樣入京の挨拶をなした。翌廿七日午前十時、兩特使は、宮中に參內、天皇、皇后兩陛下に拜謁仰付けられ、溥儀皇帝よりの御親書を捧呈し、こゝに特使としての重任を果し、一旦ホテルにもどつた後午後零時十五分再び參內、豐明殿に於て御會食を賜つた。（寫眞は東京驛より宿舍帝國ホテルへ向ふ鄭特使）

（御親書捧呈の爲め參內する兩特使）

（沿道に兩特使を迎へる婦人團體）

明治神宮參拜の 鄭・熙兩特使

三月廿七日、宮中豐明殿において御會食を賜り、聖恩のかたじけなさに感激して宮中を退下した兩特使は、畏きあたりよりの御答訪使、林式部長官の訪問をうけた後、午後三時ホテルを出で、明治神宮にいたり禮拜し、次いで九段靖國神社に詣で、、滿洲に出征し、滿洲建國の礎石となつた勇士の靈に額づいた。

寫眞は明治神宮に參拜した鄭、熙特使一行。

多摩御陵參拜の鄭熙兩特使

鄭、熙兩特使は、三月廿八日午前九時宮中差廻しの自動車をつられて、帝國ホテルを出て、同十時淺川着、森嚴な神苑を徒歩で多摩御陵を參拜した。(上圖)は多摩御陵參拜の鄭特使(右)と熙特使(左)

滿洲の父、故武藤元帥の墓に詣でた鄭熙兩特使

三月三十一日朝、第一衞戍病院を訪問し、滿洲事變によつて傷いた傷病兵を慰問した鄭熙兩特使は、その足で直ちに小石川音羽護國寺に永眠する滿洲建國の恩人故武藤信義元帥の墓に詣でた。この日武藤元帥の能婦子未亡人は黑紋付に裝ひを正して二女操さんと共に特使一行を待ちうけ、兩特使は生花の花環を捧げて默禱暫し、やがて感慨無量の面持ちで身を起した兩特使は、能婦子未亡人と固い握手を交し『我が滿洲國のために偉大なる功績を成し遂げられた故元帥の死去を今更らながら悲しみます』と慰問の言葉を述べ、盡きぬ名殘りを惜しんで一行は軍令部總長宮の御招宴へのぞんだ(下圖)は墓前の劇的對面で向つて右から操子、能婦子未亡人、鄭、熙の諸氏

日滿の宰相喜びの杯をあぐ——首相官邸の歡迎宴——

齋藤首相は三月廿七日午後六時半、官邸において、兩特使の歡迎晩餐會を開催した。こゝに日滿兩國の宰相は、卓を同じうして高く喜びの杯をあげ、さわやかな春宵に、日滿兩國交驩の宴は八時過ぎまで續いた。參會者は湯淺宮相、鈴木侍從長、本庄侍從武官長、各國務大臣、平沼樞府副議長、秋田衆議院議長、趙欣伯氏、丁公使大橋外交次長等で、日滿兩國の顯官多數が一堂に會した事は歴史的に意義深いことであつた。（上圖）は當日の記念撮影

芳澤さんが兩特使を招待

元支那公使として、現滿洲國溥儀皇帝とは淺からぬ緣をもつて居り、鄭孝胥氏、熙洽氏とも舊知の間柄である芳澤謙吉氏は、四月二日麻布霞町の自邸に、兩特使を招待して、種々歡談した。（下圖）は歡談中の右より、芳澤氏、兩特使、丁公使の諸氏である。

滿洲国の生みの親 本庄將軍と両特使の笑ましき會見

本庄侍從武官長は、四月二日正午から、鄭、熙兩特使を九段の偕行社に招待した。宴は丁公使、趙立法院長、大橋、阪谷兩次長や、植田參謀次長、柳川次官など主客合せて卅名いづれも皆顏なじみの事とて打解けて歡談した。滿洲國の事實上の生みの親ともいふべき本庄將軍と、現在滿洲國を背負つて立つ鄭總理と熙財相は、共に苦行した滿洲建國當時を語り合ひ、唯々笑ましきシーン、感慨無量の光景であつた。

寫眞はなごやかな懷舊談にふける—向つて左から熙本庄、鄭の諸氏

東京市の兩特使招待（上）

牛塚東京市長は、三月廿八日午後三時から鄭、熙兩特使を主賓に、隨員一行を、泉石の粹を集めた深川の清澄庭園に招いてお茶の會を催した。定刻兩特使は、園内涼亭で先づ五百萬市民を代表する牛塚東京市長と固い握手を交し、次いで式守宗匠が指導する同門下生の薄茶の手前を觀賞し、餘興場では宮内省雅樂部員が心をこめて奏するみやびやかな舞樂に聞きほれ、次で茶菓室に臨み、更に大正記念館前庭で、松竹少女樂劇部員の華やかな『さくら音頭』に打ち興じた。寫眞はさくら音頭に打ち興ずる兩特使

兩特使歡迎の日滿交驩大會（下）

鄭、熙兩特使歡迎の日滿交驩大會は、四月三日午後一時から明治神宮外苑日本青年館で盛大に催された。會場は定刻前から日滿兩國民大衆三千餘名がギッシリ埋まり、來賓席には淸浦伯、近衛公、鈴木莊六大將土方日銀總裁他朝野の名士數百名、主催者席には田中光顯伯、頭山滿翁、林陸相等廿名が著席、戸山軍樂隊のマーチにつれ兩特使は有馬良橘大將に導かれて入場、續いて溥傑、潤麒、丁公使等も席につき、かくて兩國國歌の吹奏の後有馬大將及び鄭總理は起つて夫々國民的結合を誓ひ、天皇陛下及び滿洲國皇帝陛下の萬歳を三唱して式を閉ぢた。寫眞は同大會に於ける鄭特使の挨拶

熙特使　多門將軍の遺族を訪問

―故將軍五十日忌に―

熙特使は、四月五日早朝、舊友の壺井善太郎氏を訪問、更に澁谷區豊分町なる故多門二郎中將邸を訪問し、故中將の五十日忌に臨んだ。午前十時十五分房子未亡人を初め遺族の人々に迎へられて多門邸に著き、同家奥座敷にしつらへられた祭壇の前に進み、將軍の靈前に恭しく玉串を捧げ、默禱暫し、かつての敎官であり、また滿洲の野にあつて、滿洲建國の基礎を確立した第一線の人、故中將の偉勳を偲んで、感慨無量の趣きであつた。やがて別室に於いて改めて房子未亡人等遺族の人々に謝面、茶菓の饗應をうけ、未亡人が『夫在世中は色々と御世話になり、又今度重大使命を帶びられて御繁忙の毎日を過させられてゐられるにも拘らず態々御參りを戴きまして誠に感謝の言葉もありません』と挨拶すれば、熙特使も暗然として『滿洲國が故將軍に負ふ所は實に大きなもので言ひ表す言葉もありません、三千萬滿洲國民に代つて御禮を申上げます……』と慇懃に答へ同十時辭去した。（寫眞は多門邸訪問の熙特使（左端）―右より房子未亡人、令息）

×　　×　　×

尙ほ、特使の大任を果した鄭總理は、四月五日午前九時廿二分東京驛發電車で、齋藤首相、湯淺宮相、廣田外相、芳澤元外相、丁公使、林滿鐵總裁以下日滿關係諸團體の盛んな見送り裡に、名殘りを惜しみつゝ退京した。同特使は同日は熙特使と共に横須賀軍港を見學し、それより西下歸路についたが、熙特使は再び歸京、數日滯在の後西下した。

廣漠たる雪原を一隊の馬車群が通ります。うらゝかな陽光が古典的な支那寺に反映して、天地萬物に春來るを告げてゐる様です。やがて積る雪も暖い陽に解けて、樹々草々の若芽が競ひ出ませう。これは滿洲國都新京郊外の情景です。洽ねき王道平和の光は、惡軍閥の暴虐非道に苦しんだ時代の陰欝な影をすつかりぬぐひ去りました。やがて訪れる春は、この王道樂土に本當の暖かさ、明朗さ、長閑さをもたらしませう春淺き雪路の朝を、黙々と行く馬車群の歩みも、何となく輕やかにみえるではありませんか。

澄宮殿下 士官学校予科御卒業
習志野騎兵聯隊へ御入隊遊ばさる

陸軍士官學校第四十八回豫科卒業式は、三月十七日午前九時から、御名代梨本宮殿下の御臺臨を仰ぎ、林陸相、眞崎教育總監、植田參謀次長、南、渡邊、鈴木の各大將等參列の下に、牛込本村町の同校で擧行され、澄宮崇仁親王殿下には、優秀な御成績をもつて、めでたく御卒業遊ばされた。同日御名代宮殿下には、御付武官を從へさせられて同校へ御台臨優等學生の講演を聽召され、次いで生徒の柔、劍道、體操、障害物通過競技等を御覽の後式場へ成らせられ澄宮殿下を始め奉り、三百九十五名の卒業授與式に御參列、同十一時四十分御歸還遊ばされた。

尙ほ澄宮殿下には、習志野騎兵第十五聯隊に上等兵の御資格で御入隊聯隊勤務を御體驗遊ばさることゝなり、三月十九日輝かしい御入隊式を行はせられた。

（寫眞は、末松校長より卒業證書受領の澄宮殿下）

西義一中将凱旋

〜東京警備司令官に榮轉して〜

西本部隊長として、東北の健兒を率ゐて約三ヶ年間、熱河、長城線に轉戰、承德の入城、古北口の占領、南天門、新開嶺の攻擊等々苦闘に苦戰を續けて、同方面の平定に不朽不滅の武勳を樹てた前第八師團長西義一中將は、先程の異動で、東京警備司令官の重職に榮轉したので、菊地副官を帶同して、三月廿九日東京驛着列車で、帝都に凱旋した。プラットホームには、秩父宮、閑院宮、梨本宮各殿下の御使を始め、林陸相、大角海相、南、渡邊、阿部、荒木各軍事參議官、柴、河合兩大將、植田參謀次長、柳川次官以下陸海軍の將星、鄕軍、靑訓生、愛國婦人諸團體等が賑やかに出迎へた。同中將は先づ各宮家御使に御挨拶の後出迎への人々に挨拶を應へつゝ中央通路を出て、同九時十五分宮內省差廻しの自動車で參內、同じく參內した井上中將、茂木、中村、園部三少將、谷、成澤の各部隊長と共に、天皇陛下に拜謁仰付けられ、具さに在滿中の軍狀を奏上し、優渥なる御慰勞の御言葉を賜はり、御紋付銀花瓶を下賜せられた。

（寫眞は東京驛着の西中將）

林陸相最初の 師團長會議（上）

林陸相就任後初めて召集された軍司令官及師團長會議は、三月廿七日から三日間東京に於て、松井臺灣、川島朝鮮兩軍司令官、朝香近衛、東久邇第二師團長宮殿下を始め奉り、森第一、若山第三外各師團長、留守司令官、本省側から林陸相土岐、柳川兩次官、石井參與官、永田軍務、小野寺經理外各局長並に植田參謀次長、林敎育總監本部長等出席して開かれた。（寫眞は林陸相の訓示）

四凱旋將軍に 御陪食を賜ふ（下）

天皇陛下には、滿洲より凱旋した前第八師團長西義一、前關東軍參謀長（第五師團長）小磯國昭、前獨立守備隊司令官（參謀本部付）井上忠也三中將並に、前騎兵第四旅團長茂木謙之助少將の四凱旋將軍御慰勞の思召を以て三月三十一日正午宮中豐明殿に御召の上午餐會を催させられ、御陪食を賜ひ、更に千種の間に於て一同に茶菓を賜つた。（寫眞は參内の向つて左より小磯、西、井上、茂木の各將軍――於東御車寄――

永井さん大滿悅

ブラジル移民の第二世に囲まれて

三月廿七日午後八時橫濱入港のぶえのすあいれす丸で、南米ブラジル在留邦人の第一回母國訪問團が來た團員は團長合田久市氏以下男子五十七名、女子廿五名、十二歲以下の子供三十二名合計百十五人といふ賑やかさで、ブラジルに在住すること廿五年の前山萬平君をはじめ、十年以上在住したといふのが卅名以上も居つて、もう殆んど日本の風物などは忘れてしまつたやうな人々ばかり、殊に第二世達は、初めてみる母國の風光に眼を瞠つてゐた。一行は、同日午後三時過ぎ、霞ヶ關の拓相官邸に永井拓相を訪問して挨拶を述べたが、この御客さんを迎へた永井さんは大喜びで、可愛い子供達の肩をたゝきながら『遠いところをようこそおいでになりましたね』などゝ慰め如何にも移民の父らしく大滿悅であつた。

（寫眞は、ブラジル移民の子供達に取り圍まれて大滿悅の永井さん）

「大平洋の波 静かなれ」

ペリー來朝八十年記念日の日米交驩放送

米國の提督マッシユウ・カルブレイス・ペリーが黒船六隻を率ゐて再度渡來して、今の横濱で、我が帝國の全權林大學頭、井戸對馬守等と、『日本と合衆國とはその人民永世不朽の和親を取り結び場所人柄の差別無之事』を第一條とする十二ヶ條の修交條約を結び、日米修交の緒を開いたのが嘉永七年三月三日、新暦に直して三月三十日、あれからもう今年は八十年目に當る。この條約締結の三月三十日をペリー、デーとして各方面で歴史的記念の催しが行はれたが、東京中央放送局ではサンフランシスコN・B・C局との間に八十年前を回顧する意義深い交驩放送が行はれた。當日午前八時十六分先づ日本からの放送が始められ、グルー米大使の挨拶について、石井菊次郎子が日米親善を强調して全米に呼びかけ終つて長唄交響樂『吾妻八景』を放送、引續き同八時四十五分から米國から放送され、齋藤駐米大使の挨拶に次ぎ元駐日大使モリス氏は兩國提携協調を力說し大成功裡にこの放送を終つた。滿洲事變によつて、日米兩國間には感情上に大きな構渠が掘られ、太平洋上に暗雲低迷するの觀がある、これは時が經つにつれて御互が漸次諒解し合ふやうになつては來てゐるけれども、まだ釋然たらざる所が見える。一日も一刻も早くあの太平洋の暗雲が一掃されて、その名の如く太平洋が波靜かに、朗かになることが望ましい。

（寫眞は日米修交記念の交驩放送で左が石井子、右はグルー米大使——愛宕放送局で——）

感激新たに偲ぶ 軍神廣瀬中佐
─旅順閉塞三十年記念祭─

軍神廣瀬中佐が、旅順港外の華と散つてから三十年、三月廿七日はその記念日に當るので、水交社主催の下に、神田須田町の廣瀬中佐、杉野兵曹長銅像前で卅年記念祭典が催された。この日東京海洋少年團員百五十名は、例年の樣に午前七時から原大佐の指揮の下に銅像を洗ひ淨めた。午前十時、廣瀬中佐と共に第二閉塞隊福井丸の乘組員であつた石井金次郎氏、山本牛二氏、三富由太郎氏を始め、廣瀬中佐の兄さん故廣瀬勝比古少佐の春江未亡人、杉野兵曹長の三男杉野壽雄海軍少佐等の遺族及びこの日の委員長たる廣瀬中佐の級友財部海軍大將をはじめ、大角海相、加藤、有馬、山屋、竹下、岡田、山本、小林の各海軍大將、在鄉軍人會、國防婦人會など四百餘名が參列、神田明神木村宮司の修祓によつて祭典を行ひ、清淨された銅像の前で感激も新たに軍神廣瀬中佐を偲んだ。（寫眞は海洋少年團の銅像清掃）

驅逐艦「浦風」凱旋

―前後九年間の護りから―

大正十五年以來ズーッと揚子江沿岸警備の爲めに出動中であつた第三艦隊所屬の驅逐艦『浦風』は三月十九日、在港艦船の登舷禮に迎へられながら、九ヶ年ぶりで橫須賀に凱旋した。

同艦は日本軍艦としては珍らしい白塗りの軍艦で、出動中に上海事變に遭遇し、當時は遣外艦中の優秀艦として幾多の實戰に活躍、揚子江沿岸の支那人から非常におそれられてゐた。又上海事變當時陸戰隊員として、閘北の野に勇名を馳せた土橋大尉以下十九名の出征兵員も在艦して居る。尙ほ同艦は、日支停戰後は、揚子江口から宜昌までの間を往復して、居留民の保護、權益の擁護に任じてゐたもので、上海事變の殿りの凱旋である。

(上圖) 凱旋した浦風

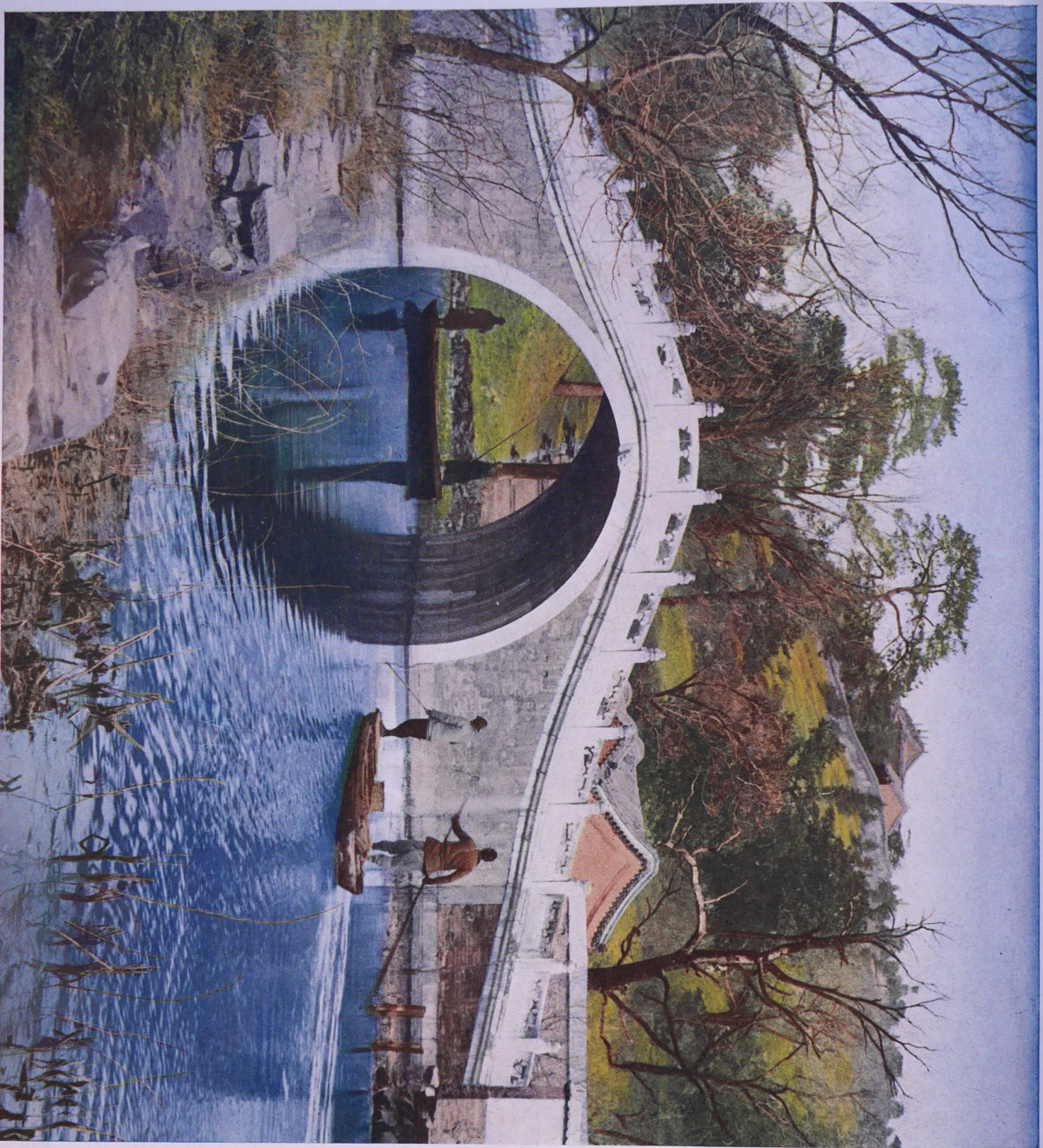
(下圖) 浦風艦長富澤不二彥中佐

愛國「大学高專」号 命名式

愛國學生聯盟では、都下の各大學校、高等專門學校をはじめ全國の各大學校高等專門學校學生廿萬に呼びかけて寄附金をあつめ、愛國第百十一號『大學高專號』——九一式戰鬪機を建造中であつたが、この程竣工したので、三月廿三日午後一時から代々木練兵場に於て、都下愛國學生團體總動員のもとに盛大なる命名式を擧行した。

寫眞はその命名式である。

北平の弓橋

北平は名所舊蹟の多い所で、單に見物の目的ならば、極東廣しと雖も北平に勝る所はあるまいとさへいはれてゐます。先づ城内には莊嚴雄大な紫禁城があります。次いで天壇、喇嘛寺、孔子廟があり、更に中央公園、歴代帝王廟、鼓樓等々枚擧に遑なしといつた有樣です。又其の附近の名勝には、西洋人間に夏の離宮として知られてゐる萬壽山をはじめ、淸華園、圓明湖、昆明湖、淸朝全盛時代の俤を偲ぶ湯山離宮、帝王の陵として天下無比の西陵、康熙帝の夏の離宮であつた玉泉山、五百羅漢で著名な碧雲寺、萬壽山、玉泉山と共に三山といはれる香山等々全く名地といふ名地をこの一帶に集めた觀があります。寫眞は北平の弓橋ですが、穹窿形の橋、橋畔の楊柳橋下の流れに棹さす小舟等の趣は、よく景勝の地北平の風景の全幅を傳へてゐます。

函館大火の惨狀

―さながら焦熱地獄―

三月廿一日午後六時頃、函館市谷地頭町電車停留所附近から發した火は、折から荒れ狂ふてゐた風速三十餘メートルの烈風に煽られて、忽ち四方八方にひろがり、紅蓮の焔は、烈風中に渦卷いて、みる〳〵間に全市を火の海と化してしまつた。

罹災者は、猛り狂ふ烈風と猛火に追ひまくられて、泥路の中を、或は東に、或は西に、僅かな家財道具を背負ひ又は瀕死の病人を車に載せ、或は馬車、荷車、自動車で逃げまどひ、實に阿鼻叫喚、この世ながらの地獄を現出した。全國にその優秀さを誇る函館消防隊も、この烈風に勢を得た劫火には、全く手の下しやうもなく、完全に無力となつて、火に追はれて共に逃げ回るといふ有樣であつた。かくてこの劫火は、燃え續けること十四時間餘り、函館市内電車起點谷地頭から、市の中央部十字街に進み、カフエー街、銀座通りを一なめにして、同電車線路に沿ふて、東部へ延燒し、函館の淺草といはれる繁華地帶松風町大門附近から、更に火勢は湯の川溫泉行電車線路に沿ふて函館中學まで、いはゆる『東部』一帶約一里半、幅廿町に及ぶ全市のおよそ四分の三を灰燼としてしまつたのである。

その燒失戶數二萬四千、燒死者約六百人、收容後死亡者約三百人、重輕傷者約二千人と稱せられ、その資財の損害は、いくばくなるを知らず、昨日まで殷賑を誇つてゐた北海道第一の海港は、一夜にして茫々たる一望の燒野原と化してしまつた。

翌廿二日の午後に至つて、風の衰へると共にさしものこの劫火も漸く鎭火したけれども、着のみ着のまゝで逃げ出した罹災民は、棲むに家なく、著るに衣なく、食べるに物なく、悲嘆に暮れてさまよふのみ、のみならず吹雪さへ降つて、その苦難慘狀は目も當てられぬ有樣、燒跡には死屍が橫はり、或は埋れ、負傷者は至るところに呻吟し、大森濱附近は、死屍累々として、關東大震災當時の東京を髣髴たらしめる樣な有樣、その悲絕慘絕全くこの世のさまとも思はれぬ狀態であつた。

（上圖）新川町通りの慘狀――電車も電線も、何も彼も燒き盡されて一望の燒野ヶ原だ。

停車場からみた大門通りの燒跡

さすがの繁華街も一夜の中に焦土と化してしまつた。

大門通り燒跡を掘る罹災者達

悲慘のきはみ全くこの世ながらの地獄のすがたである。

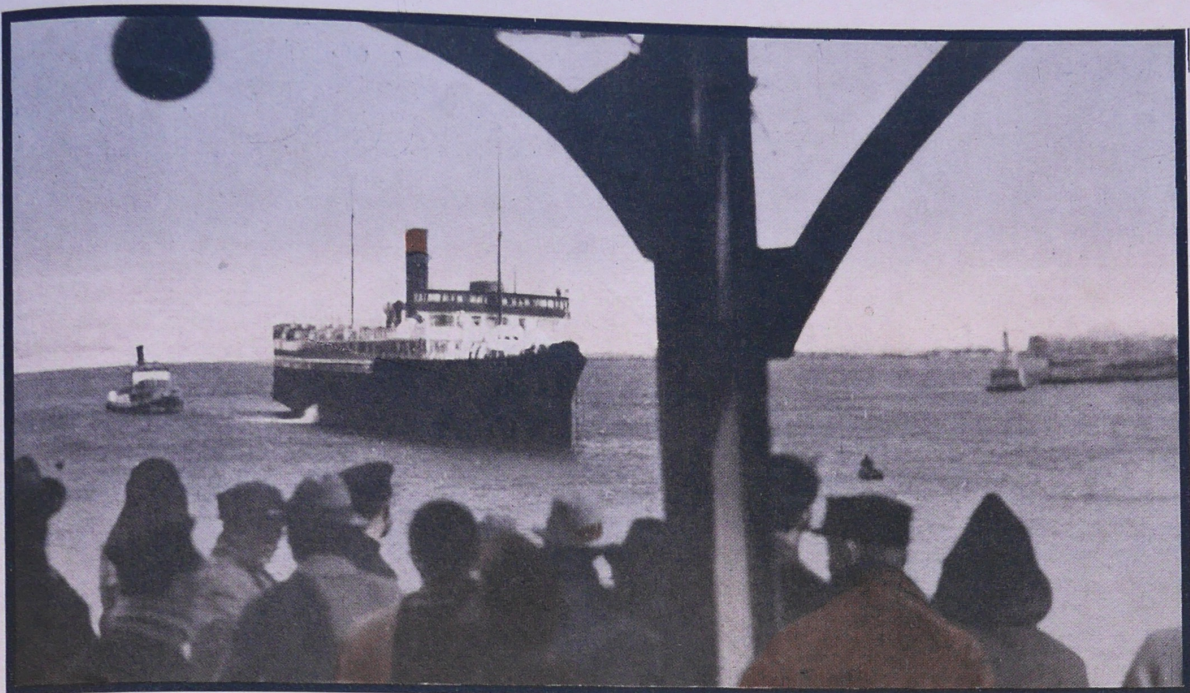
地蔵町附近の燒跡

總べては灰燼に歸して僅かに土藏の類が殘骸を止めてゐる。

餘燼の中で家財道具を探す

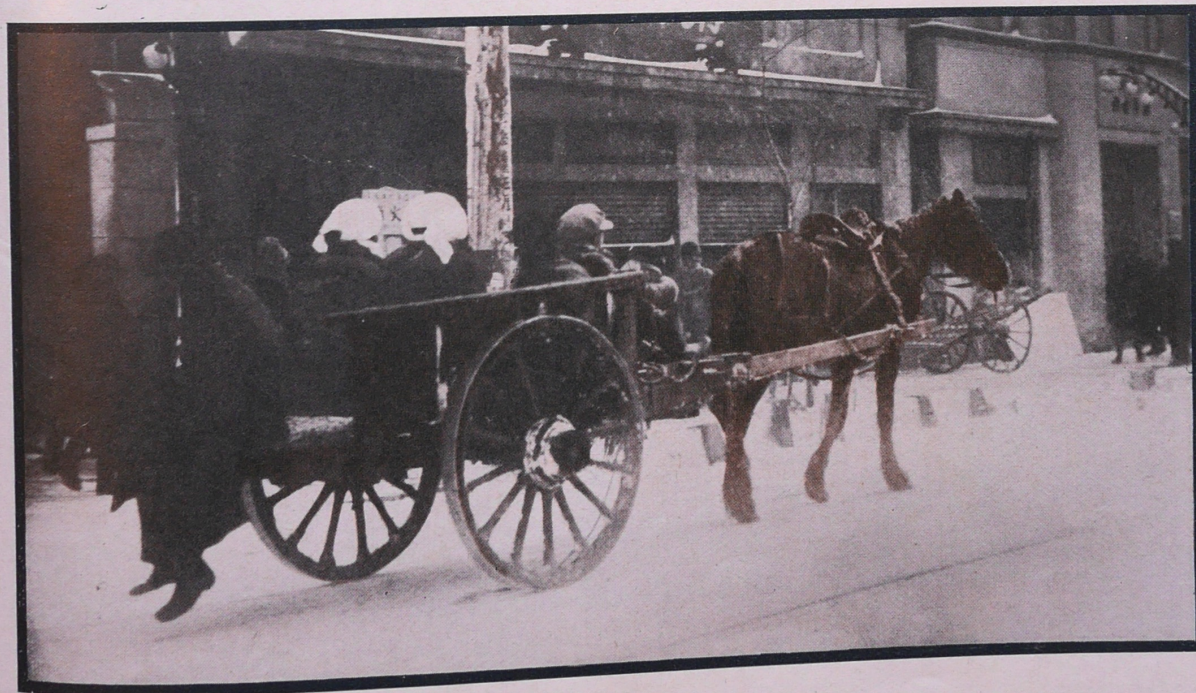
餘燼のまだブツブツ燻ぶる中で、燒殘つた僅かの家財道具を探し求めてゐる。

← 避難民を載せて連絡船「松前丸」青森港に入港

青函聯絡の松前丸、翔鳳丸、飛鸞丸等は大車輪で罹災民の輸送に當り、鐵道省では乘車賃をもたない罹災民は無賃乘車でドシ〳〵本州各地に送還させた。

→軍隊の燒跡警備

函館大火の報と共に、陸軍では取敢へず旭川工兵隊、衛生隊及び函館砲兵隊を派遣して罹災者の救護と治安の維持に努めた。又救恤品として旭川部隊から毛布七千八百九十枚、乾パン四百箱、罐詰肉三萬六千食を、又札幌糧秣廠から白米二百俵、又弘前部隊は毛皮九千枚、外套二千五百枚、乾パン七百三十梱他罐詰、テント等を配給した。

← 焦土の交通機關、乘合馬車

東京の大震災を思はせる情景だ、吹雪粉々たる焦土に自動車、電車に代る交通機關がこの急造の乘合馬車である。

聖恩畏し 災禍の函館へ 侍從を御差遣遊ばさる

畏きあたりでは函館の災禍を聽し召され、いたく御軫念あらせられ、三月廿四日罹災者御救恤の有難き思召しから御内帑金一封を御下賜相成る旨御沙汰あらせられ、同時に罹災者御慰問と慘害地の狀況御視察の思召しから侍從德大寺實厚氏を現地に御差遣あそばされた。同侍從は、廿四日午後二時卅五分上野驛發で出發、廿五日午前十一時四十分函館に到着、佐上北海道長官、坂本函館市長、藤岡警察部長等の出迎へをうけ、元町なる道廳函館臨時出張所にいたり少憩の後、佐上長官より狀況を聽取し、御内帑金を傳達の後罹災地各所を視察した。

（上圖）上野驛出發の德大寺侍從

救援計畫を練る 佐上北海道長官

議會で上京中であつた佐上北海道長官は、大火の報に接するや、廿二日午前十時から内務省で同じく上京中の泊土木、羽生拓殖、奥田產業各部長を集めて善後策を協議し、羽生部長のみを殘して全部出張所を引拂つて現地へ急行する事に決し、一同は同日午後二時卅五分上野發列車で函館へ向ひ、同地に出張所を設け罹災者の救護復興計畫等に當つた。

（下圖）内務省に於ける善後策協議で、左から佐上北海道長官、羽生拓殖部長以下である

焼失した函館市役所

函館銀座の焼跡

函館驛前の慘狀

大門方面の慘禍

知人の安否如何にと…

函館の大火、折からの烈風に煽られた火は猛烈な勢で燃え擴がり、忽ち全市を火の海と化した。さすが全國に誇る消防隊も手の下し様もない、燒死者千名に及び重輕傷者二千。全市は殆んど全滅だ、燒野ケ原となつた、罹災者は、心にくくも降り出した吹雪の中で、酷寒と飢餓で死線をさまよつてゐる、等々……、悲報に次ぐに悲報だ。函館出身の者はいはずもがな、函館に身寄りのある者、知人のある人々は氣が氣でない。家族親戚の上を氣遣ひ、知人の安否を案じて、取るものも取敢へず衣類、食糧等を携へて函館へ、函館へ……、一刻が惜しい、一瞬も早く行き度い、改札の時間の來るのが待ち遠しい……青森で……（左右兩頁）

× × ×

火焔の函館を命からぐ〵逃げ出し、飢えと寒さに慄へつゝ、漸く青森へついた罹災者達——この空胴の様な眼よ怯えきつた心よ、慘めな姿よ！（右上圖）

函館行
PLATFORM

陸海軍の救援作業

函館の大火に、陸軍では別掲の様に直ちに旭川部隊が罹災者の救援に當り、治安の維持に任じたが、又海軍では第一驅逐隊神風、野風、沼風、波風及び大泊を派遣して大湊、函館及び青森、函館間の救護材料、人員の輸送ならびに通信聯絡をさせ、また函館在港中の特務艦野島を青森、函館間の輸送に任ずることとし、神風沼風、野風、波風の四驅逐艦は直ちに乾パン、米、麥、醤油、砂糖、ウドン粉、罐詰其の他の救援物資を滿載して廿二日午後一時函館に向ひ救援した。

（上圖）救援のため青森第五聯隊上陸

（中圖）軍隊荷物の陸揚作業

救護班の活躍（下圖）

陸海軍、道廳、赤十字をはじめ、各地から急派された官民の各救護班は、罹災民の救護に、負傷者の手當に大車輪だ。（寫眞は松風小學校に於ける救護班の活躍ぶり）

関東大震災を思ひ出す スイトン屋

見渡す限りの大燒野ヶ原、見るもの、聞くもの悉く悲慘の極みである。餘燼がまだブツ〳〵燃え、熱氣と、臭氣と、煙にむせるやうな中に、逸早く速成のスイトン屋が出來た。『スイトン一パイ五錢』メガホーンで客を呼んでゐるこの情景、東京人には、十餘年前のあの大震災當時の慘狀がまざ〳〵と蘇つて來る。

→ **松風小學校に收容された罹災者達**

劫火に追はれて、本當の着のみ着のまゝで無我夢中に逃げた。そしく漸くこの避難所まで來るには來たが……、子を失つた親もあり父に離れ、母にはぐれた子もある。さてこれからどうする、唯呆然自失だ、襲ひかゝる寒さと、飢えに、訴へる父も無く、せがむ母もない子供等の哀れな姿よ！

慘禍の函館へ送られる温い救援の數々

一夜のうちに劫火の犧牲となり、燒野ヶ原と化した函館の、十五萬に近い罹災者達は、その後に來る飢餓と、心にくい吹雪と、酷寒にさらされた。この同胞の不慮の災厄に、全國からの温い同情の手は一齊にさしのべられて、或は慰問金、或は防寒具、或は食糧が、續々として輸送された。

↑函館へ送る慰問品の山

愛國婦人會救護品を急送（上）

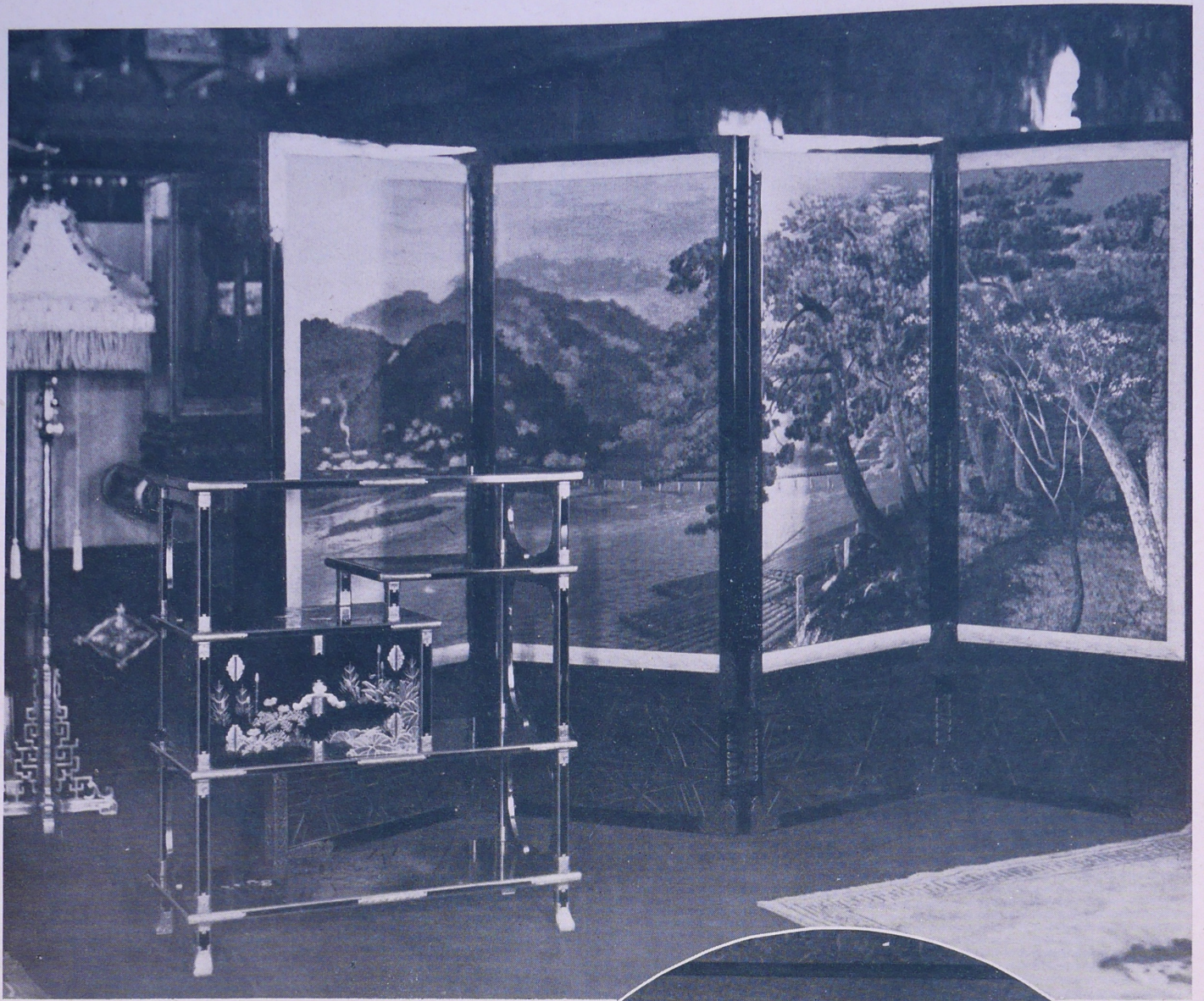
愛國婦人會では、函館大火の報に直ちに金一千圓を防寒毛布其の他に替へて現地に急送した。寫眞はその荷造り中の處。

新橋藝妓連も慰問袋を送る（左中）

新橋藝妓組合では慰問のため金一千圓と、藝妓連が各自持ち寄つた慰問袋二千個を寄贈した。寫眞は藝妓連が慰問袋を製作中の處

赤十字看護婦函館へ急行（下）

函館大火の報に赤十字救護班一行は、廿二日午後二時半上野驛發列車で函館に急行した。寫眞は上野出發の同看護婦隊

東寧は滿洲國吉林省の東部、滿露國境の街です。人口約一萬の小都に過ぎませんけれども露領ニコリスク街道の要衝にあつて、商業都市として知られてゐます。街頭は國境街として特殊の雰圍氣に包まれてゐます。寫眞は街上にみる一情景ですが、ロシア語、支那語、朝鮮語で書かれた看板、洋裝異人の繪看板、ショウインドにランプと並んだ洋酒の瓶等々如何にも國境街らしい情景ではありませんか。この方面の滿露國境關門としては北にポクラニーチナヤがありますが、商業的發展の見込はこの東寧の方が優つてゐるといはれてゐます。滿洲國の强化と共に、今傳へられてゐる『滿露國境地方の緊張』も自然に消え去る事だし、國内の産業が興隆すれば、こゝ東寧の發展は目覺しいものがありませう。

天皇陛下より滿洲國皇室へ御贈進の書棚と屏風

天皇陛下には、友邦滿洲國溥儀皇帝陛下の御登極を殊の外御慶び遊ばされ、御祝品を御贈進遊ばされることゝなり、三月廿七日菱刈全權大使を御差遣遊ばされて御祝品を献上せしめられた。御祝品は、皇帝陛下には四季の草花を配した蠟色蒔繪の書棚、皇妃には嵐山の刺繡を浮かせた屏風で、何れも絢爛目もさめるばかりの美麗なものである。

（上圖）その御祝品の書棚と屏風

橋本畫伯の献上畫

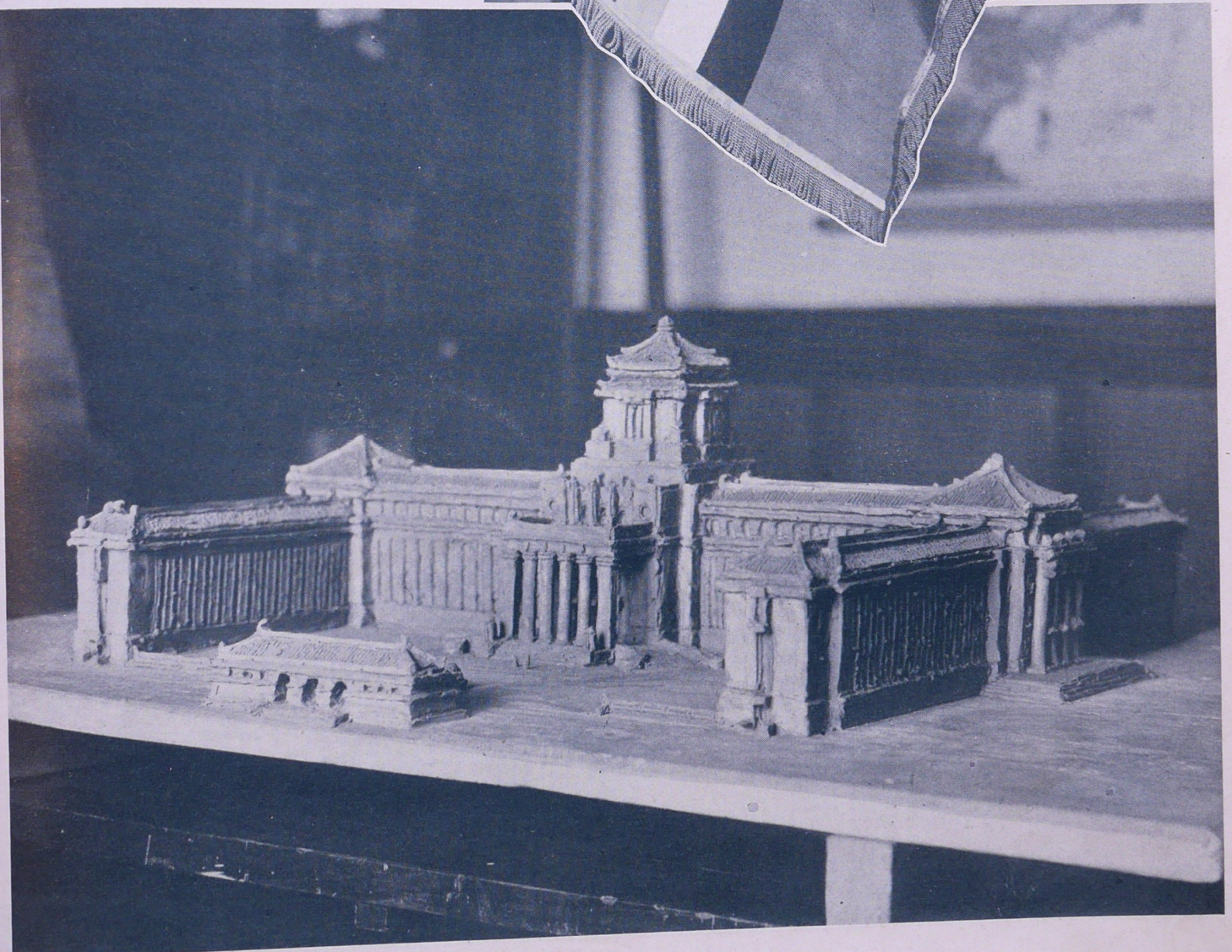
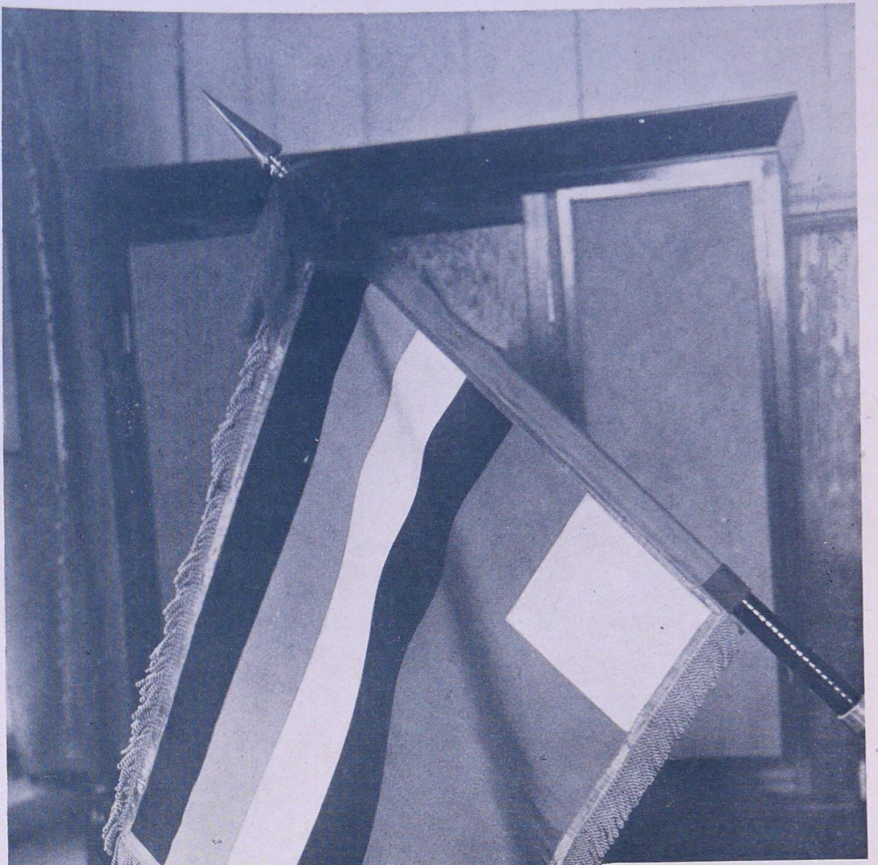
日本畫壇の重鎭橋本關雪畫伯は、この度の滿洲帝國の御盛典を心から慶祝し、心血を罩めて大作『喬松靈鷲之圖』を謹毫して滿洲國皇室へ献上した。

（下圖）橋本畫伯より滿洲國皇室へ献上の『喬松靈鷲之圖』

光輝ある満洲國軍旗

満洲帝國の陸海軍は、組織法第十一條に、『皇帝は陸海軍を統率す』とあり、親しく皇帝陛下が統率なされ、皇帝は曩に陸海軍に對して勅諭を下され士氣を鼓舞され、更に五月には觀兵式、觀艦式を行つて、皇帝の國軍御統率の意義を徹底せしめ、國軍の意氣を宣揚なされる筈であるが、それに先んじて、四月五日、皇帝は軍隊に對して軍旗を御親授遊ばされた。軍旗御親授の光榮に浴した部隊は、禁衛步兵團、教導步兵第一第二、第三各團、靖安步兵第一、第二團、教導騎兵第一、第二、第三各團、靖安騎兵第一、第二、第三各團である。(上圖)光輝ある滿洲國軍旗

新京に偉觀を誇る國務院(模型)

滿洲國では、國都新京の中心に、大宮殿を造營し、宮殿を中心として國務院、參議府以下の各官衙を建築して政治文化の中心とする計畫を樹て、これは今年から三ケ年で完成の計畫で、完成の曉は新興國都の一大壯觀となる筈である。(下圖)は國務院新廳舍の模型で五月から工事に取りかゝる筈である。

溥儀皇帝 祖先の祭祀を行はせらる

溥儀皇帝は、三月廿三日、恭親王溥偉氏を奉天大廟に差遣はされて、祖先の祭祀を行はせられた。

（上圖）奉天大廟に參拜の溥偉氏（〇印）——大廟正門にて——

勅使代拜の下に 滿洲国春季孔子祭行はる

新京に於ける春季孔子祭は三月十七日午前七時から城内孔子廟で勅使鄭國務總理大臣代拜の下に執り行はれた。式は滿洲國重臣、各要人參列の下に先づ崇聖祀が行はれ、午前八時勅使鄭總理來着、式場正面に進み禮拜の位置に就けば、殿内では莊重な昭平の神樂が奏せられ、中庭では舞生の舞が始められた。やがて勅使は古式に則り三跪九拜の禮を盡して香、帛、爵を供へ、次いで參拜諸官の禮拜あり同九時滯りなく式を終へた。

（中圖）勅使鄭國務總理大臣の禮拜

（下圖）大成殿に於ける參列の滿洲國要人一同の三跪九拜の禮、中央が勅使鄭總理、——左右の端に牛、豚、羊等の生贄が供へられてゐる。

新京に於ける陸軍記念日

三月十日の陸軍記念日は、非常時の折柄、全國軍民はあげて一入の感激に滿ちて當時を追憶したが、國防の第一戰に活躍してゐる在滿將兵はまたより一層の感激と意義をもつて當日を記念した。

新京では駐劄各部隊ならびに、在鄉軍人、青訓生等によつて、未明より壯烈なる模擬戰が行はれ、空には飛行機亂舞し、地上には物凄い市街戰を演じ、空陸呼應して凄烈な攻防戰を展開し、終つて、大同大街の新關東軍司令部新廳舍前の廣場に於いて、田代憲兵司令官の參加各團體及び新京駐屯自動車隊、戰車隊の分列閱兵が行はれた。

× ×

尙ほ同日午前十一時よりは、新京西公園廣場に於いて、明治卅七、八年戰役ならびに、滿洲上海事變において、名譽の戰死をとげた戰歿將士及び殉職者の慰靈祭を執行した。式場正面祭壇には、各方面から贈られた御供物花環が所せまきまでに飾られ、菱刈關東軍司令官、小林駐滿海軍部司令官、田代憲兵司令官、鄭國務總理大臣以下多數の大官參列して盛大であつた。

× ×

（右頁）大同大街に於ける分列式、左端閱兵するは田代憲兵司令官

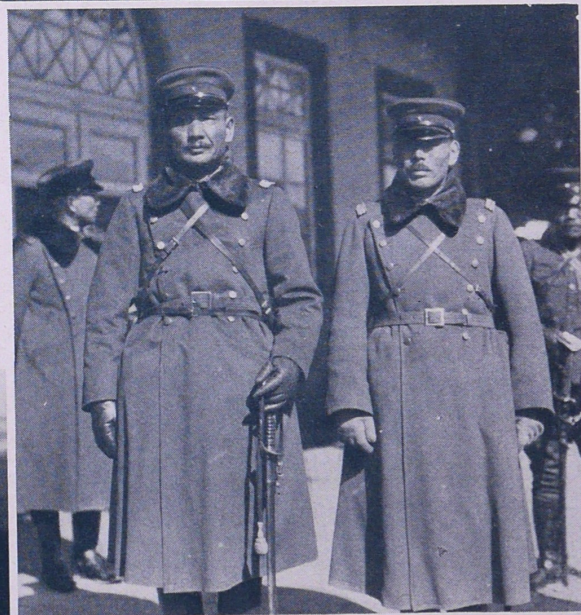
（左頁●上圖）西公園に於ける慰靈祭に參列の日滿要人——左から菱刈關東軍司令官、小林駐滿海軍部司令官、田代憲兵司令官、鄭國務總理大臣——

（左頁●下圖）慰靈祭の式場

不朽の武勳を満洲に殘して
弘前部隊內地へ凱旋

前後約三ヶ年間、熱河、長城線に轉戰し、承德入城、古北口南天門、新開嶺の攻擊等に惡戰苦鬪を續け、同地方の平定に不滅の武勳を樹てた弘前第八師團の將兵は、杉原部隊と交代に、續々內地に凱旋し、四月二日敦賀着の三宅部隊を凱旋殿り陣として全部凱旋、原隊に歸還した

× ×

（上圖）凱旋の中村第八師團長（左端）と見送りの滿洲國軍政部大臣張景惠將軍、菱刈關東軍司令官、滿洲國外交部大臣謝介石氏——新京驛頭に於いて——

（下右圖）內地へ凱旋途上、新京驛に於ける佐江田部隊長（左）と竹村部隊長（右）

（下左圖）同じく旋途上、新京驛において婦人團體のお茶の饗應をうける勇士達

成澤部隊凱旋

北滿の廣野に轉戰すること三ヶ年、幾多の戰功を立てた成澤部隊は、林少佐輸送指揮の下に三月廿日午前九時東京驛着原隊に向つた。驛頭には內山、柴兩大將以下各團體が盛大に出迎へた。尙ほ同部隊は同日午前十一時多數官民の出迎へ裡に千葉驛に凱旋、正午無事原隊に歸還した。（上圖）東京驛着の成澤部隊

白衣の勇士凱旋

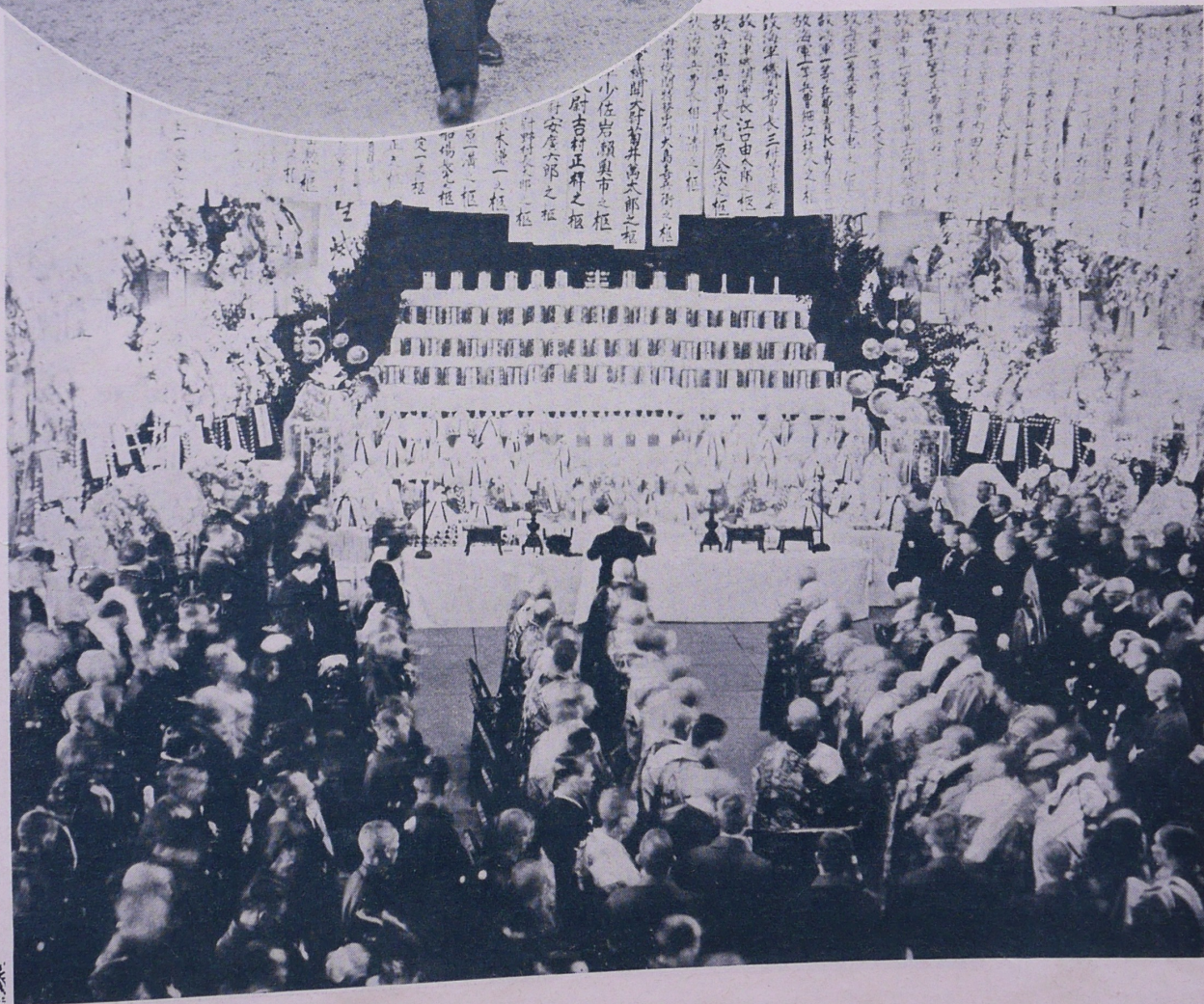
滿洲各地の戰鬪に、名譽の戰傷をうけた白衣の勇士三十九名は、それぞ〵原隊の衛戍病院に向ふことゝなり、三月十六日午前九時四十分東京驛着の列車で入京、各々その原隊へ向つた。（下圖）は東京驛についた傷病勇士達

水雷艇友鶴遭難

―査問委員神宮に奉告参拝―
―殉死将兵の海軍合同葬―

鈴木義一少將の率ゐる佐世保軍港警備隊の旗艦龍田以下第廿一驅逐隊、第廿一水雷隊の各艦は、三月六日佐世保を出港五島方面に出動して猛烈な各種訓練を行つたが、その最中水雷艇『友鶴』は遭難し僅かの生存者を殘し大多數の乘組員が艦と共に悲壯な殉死をとげるに至つた。海軍ではこの遭難事件の眞相を調査するため、野村吉三郎大將を委員長とし加藤隆義中將、井上繼松少將、古賀峰一少將以下造船、造兵、造機、運用の權威を網羅する査問委員會を組織して徹底的にその眞因の究明につとめたが、その結果については野村委員長より四月二日『友鶴』の遭難は『復原力』の不足によつて顚覆したものであると認められると海軍省に報告されたので、更に加藤寛治大將を委員長とする調査會を組織して、海軍各方面の權威を網羅し『復原力』の點につき一大研究をなし善後策を講ずることゝなつた。

査問委員神宮に奉告參拜（上）

野村委員長以下の『友鶴』遭難査問委員一同は四月二日明治神宮に參拜して、重大任務終了を奉告した。寫眞は參拜を終へて退出する野村委員長（先頭）以下各委員

殉死者の悲しき葬儀（下）

艦と共に悲壯な殉死をとげた『友鶴』の殉死兵の合同葬は、三月十七日佐世保市凱旋記念會館で出光侍從武官、米内佐世保鎭守府司令長官、野村査問委員長以下參列してしめやかに行はれた。（下圖）はその葬儀。

御即位式を擧げさせられた ベルギー新帝

ベルギー新帝レオポルド三世陛下の御即位式は、先帝アルベール一世陛下の御大葬の翌日（三月廿三日）首都ブラッセルに於て行はれた事は前月號でおしらせしましたが、寫眞は新帝がナション宮のベルギー下院に於ける宣誓式を了へさせられて、御乘馬姿も凛々しく出御遊ばされた所です。ベルギー國民は、一代の英主アルベール一世陛下を失つて、限り無い悲しみに泣きましたが、先帝の叡明と勇氣とを承けさせられ、淑德の譽高いエリザベス陛下の最上の御薫育の下に御成長になつたこのお若い新帝陛下の御即位によつて、涙を喜びにかへすことが出來ました。

ヒンデンブルグとヒットラーの握手

全歐の危機が叫ばれてゐることもう久しいものですが、その震源地はといへばドイツなのです。昨年の一月、快傑ヒットラー氏が政權を獲つてからのドイツの荒武者ぶりは全く目覺ましいものでした。ヒットラー首相はナチスの勇將猛卒共を引率して、遠近を震撼せしめつゝ、反對派といふ反對派を片ッ端しから撫で切りにして完全に全ドイツを一國一黨にしてしまひました。今ではドイツ即ちナスチ即ちヒットラーであつて、『ヒットラーの政權は何時まで續くか？』などと本氣に論ずる者はなくなり、大統領にヒンデンブルグ元帥があつても、その存在は誠に寥々たる形です。そして彼ヒットラー氏は、イタリーのムッソリニ氏と共に今日の歐洲政局を操る千兩役者となつてしまひました。

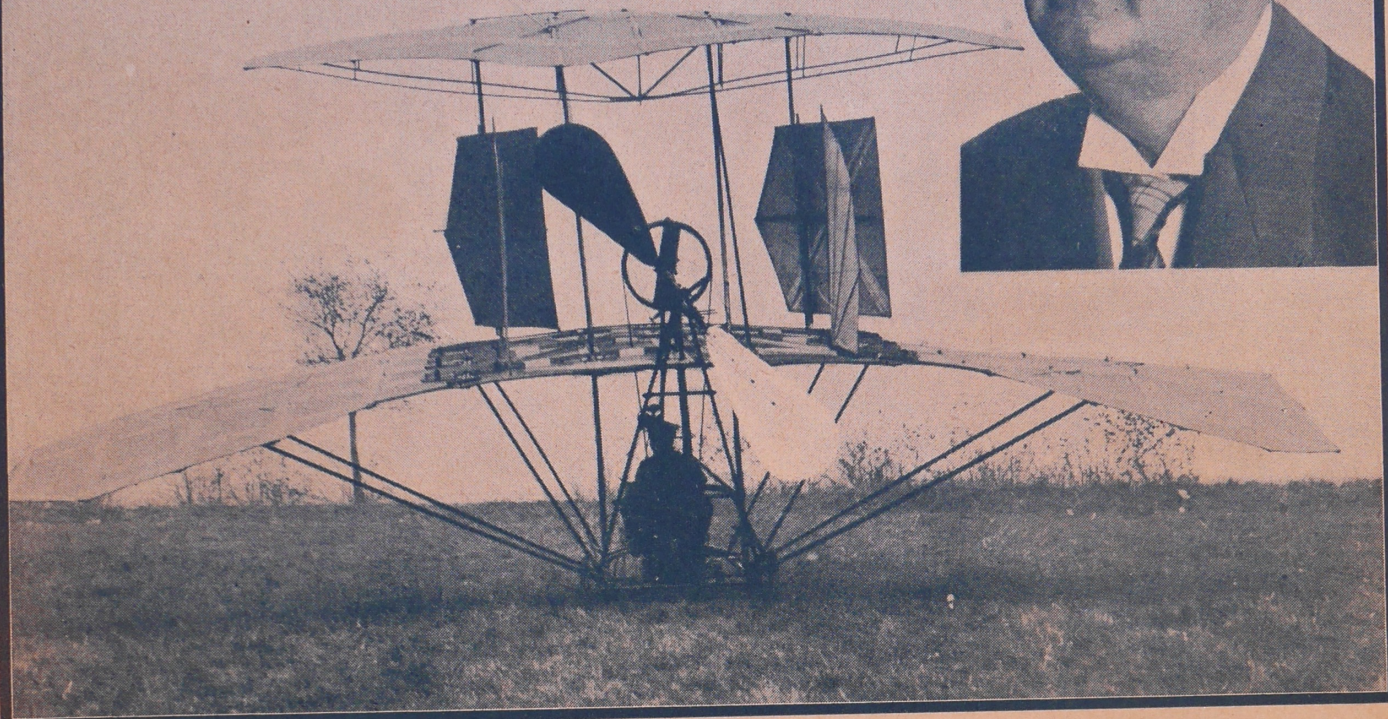
今、歐洲は全く噴火口上にもがいてゐる狀態にあります。佛、伊、獨露などの强國は、介在する幾多の小國を圍つて、微妙な關係にあり、何時爆發するとも知れない現狀です。しかも世界平和の保持機關であつたあの國際聯盟は、全くその機能を失つてしまつて、世界どころか御膝下の歐洲の諸問題さへも解決し得ない狀態です。この重大な危機に當つて彼ヒットラー氏の一言一動は、直ちに大きな波紋を全世界に投じてゐます。（寫眞はヒンデンブルグ元帥と握手するヒットラー氏）

ベルギー全國民の哀悼裡にアルベール一世の大葬

御登山中不慮の御最期を遂げられたベルギー皇帝故アルベール陛下の御大葬は、全國民の哀悼裡に、三月廿二日カトリック教の儀式に則り、サン、ギュジュール大寺院で執行されたことは前月號でおしらせいたしましたが御大葬の御模様の寫眞が到着しましたから此處に掲載しました。當日は朝まだきから歐洲大戰生殘りの勇士數千名が宮城の前に堵列し相次いで砲車に安置され、三色の國旗で包まれた故帝の靈柩に告別申上げ、時刻の經つにつれて宮城前廣場は、故帝に最後の御別れをしやうとする市民で埋まつた。やがて砲車は大戰出征兵士團に護られ、沿道に堵列した國民の涙に見送られつゝ靜々と歸りまさぬ旅路に上つた。御靈柩には皇儲レオポルド殿下（現皇帝陛下）を始め奉り、御女婿イタリー皇太子ウムベルト殿下、第二皇子シャルル殿下一同が續かせられ、ベルギー國重臣大官及び各國の代表外交使節等がこれに隨ひ、かくて靈柩は、大伽藍に到著、御遺骸は肅々として袖廊に運ばれ、皇帝の御衣、御劍と共に棺龕に安置され、午前十一時マリーヌ大司教ヴァンレー師の司會の下に嚴かな祭式が執行された。式後靈柩は再びサン、ギュジュール大寺院を出て、ブラッセルの目拔きの大通りを通つて北郊ラーケンにあるノートルダム教會に移され、廿二發の弔砲殷々と轟くうちに、この一代の英主の御遺骸は最後の御安息所に埋葬された。

（右頁）祭式を了り、サン、ギュジュール大寺院を出てノートルダム教會の御墓所へ向ふ御靈柩

（左頁上圖）弔旗を捧げて御靈柩に向つて遙拜、行進するベルギーの文武官

（左頁下圖）故帝の葬列を拜さんと、沿道に夜を徹して待つ市民

草分け時代の飛行機と最新式のボーイング機

ーライテ兄弟の先輩カール氏逝去ー

近來長足異常の發達を遂げたものはといへば何といつても第一に航空界に指を屈します。近頃はもう大西洋の横斷などは簡單にやつてのけるし、そんなに珍らしくなくなりました。新鋭機、大型機が次から次へと出來、日増しに擴張されて行く航空網の有樣を見ますと『チョット、アメリカまで行つて來ます』なんていふことになるのもそう遠い事とは思へません。既にアメリカの飛行艇六機は去る一月十日正午頃サンフランシスコを出發して途中暗夜と濃霧をついて編隊飛行をつゞけ廿四時間半で三千九百キロを翔破して翌十一日の正午頃にはハワイの眞珠灣に到着しました。そして指揮官のマクギニス少佐は『なあに命令とあればもう二千キロ位は飛んでミッドウエイ島までは行つて見せますよ』と豪語したと傳へられてゐます。事實同飛行艇の能力は餘裕綽々たるものだつたらしいです。これで見ますと、もう一奮發で日本まで一飛びに來られるわけです。又今ドイツでは一〇〇〇馬力の發動機を十個も備へつけ、乘客百五十人を收容する事が出來、伯林から紐育まで十七時間以內で飛ぶといふ大型飛行機が設計されてゐるさうです。これ等から推して考へますと世界は段々短縮されて『チョットロンドンまで』『チヨット紐育まで』などゝいふ工合に簡單に世界中を旅する日がもう直きに來る樣に思へます。この輝かしい航空時代の元祖は、といひますと、普通ライテ兄弟だといふことになつてゐます。つまり一九〇三年の十二月十七日に、北米ノースカロリナのケッテイホークの海岸で、ウイルバー、ライテとオルビル、ライテといふ兄弟が複葉式の十二馬力の發動機を備へつけた飛行機で、百廿呎を十二分間飛んだといふのが、航空界の草分けだといふことになつてゐます。ところが、このライテ兄弟よりも前に、自分で飛行機を發明し、製作して飛んだ人がゐるのですこの人はカール、ヤートと呼ぶ人で、ライテ兄弟がケッテイホークの海岸で初飛行を行つたのに先んずること四ケ月前、即ち一九〇三年の八月十六日に、十四キロ米を飛んだといふのです。ですからカール、ヤート氏の方がライテ兄弟よりは先輩なわけで、航空界の元祖といふ名譽は、當然同氏に與へらるべきものですが不幸同氏のこの壯擧が一般に知れなかつた爲めに、この榮譽を失つてしまひました。同氏は其の後ズーッと航空機の研究に從事してゐましたがつひにこの程亡くなりました。

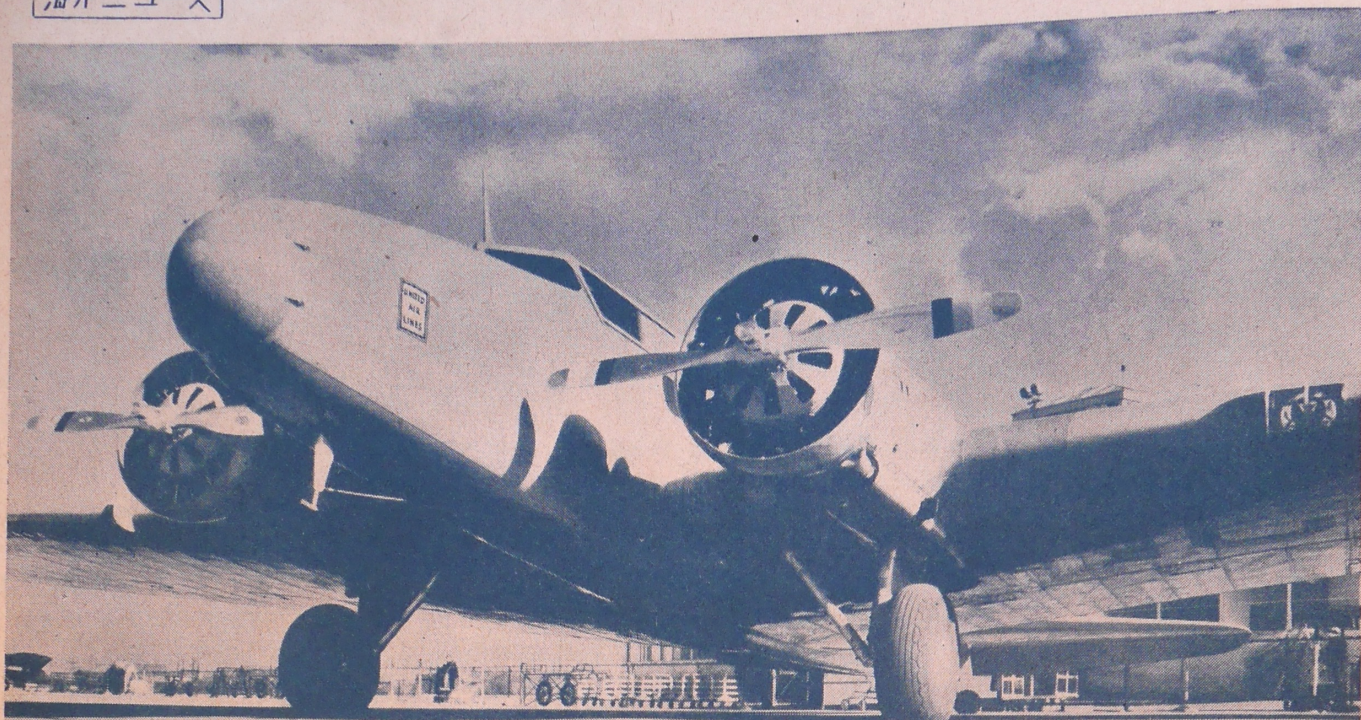
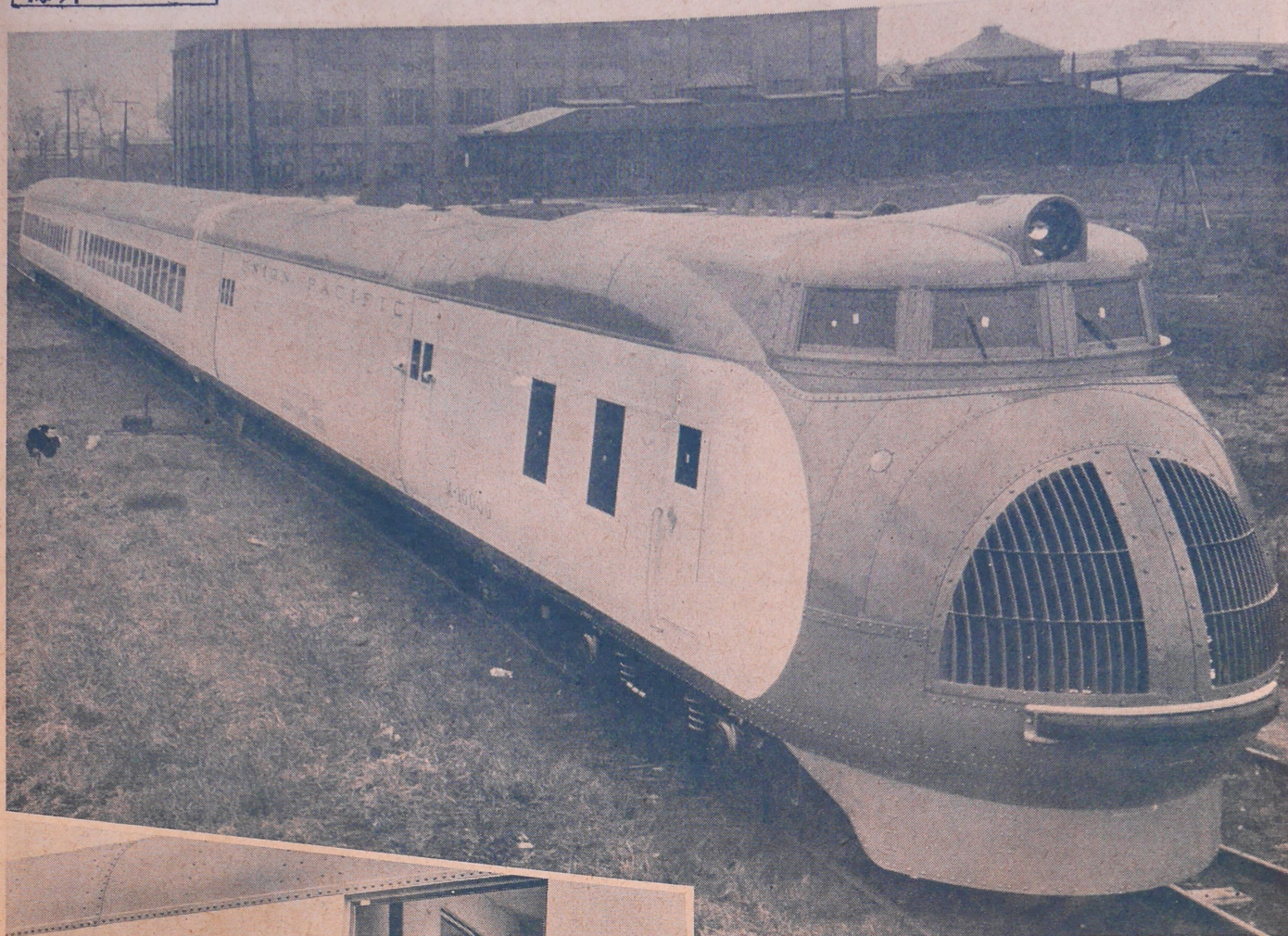
（右頁）はカール、ヤート氏と自作の飛行機です。

（左頁上圖）はアメリカの新旅客飛行機NC、一三、三〇〇型ボーイング機ですこの飛行機はワスプ發動機二基を備へ、全金屬製單葉機旅客十名、乘組員三名、時速一七〇哩で、紐育、シカゴ間の定期飛行に使用されてゐます。

（同下圖）は同飛行機の旅客室です。

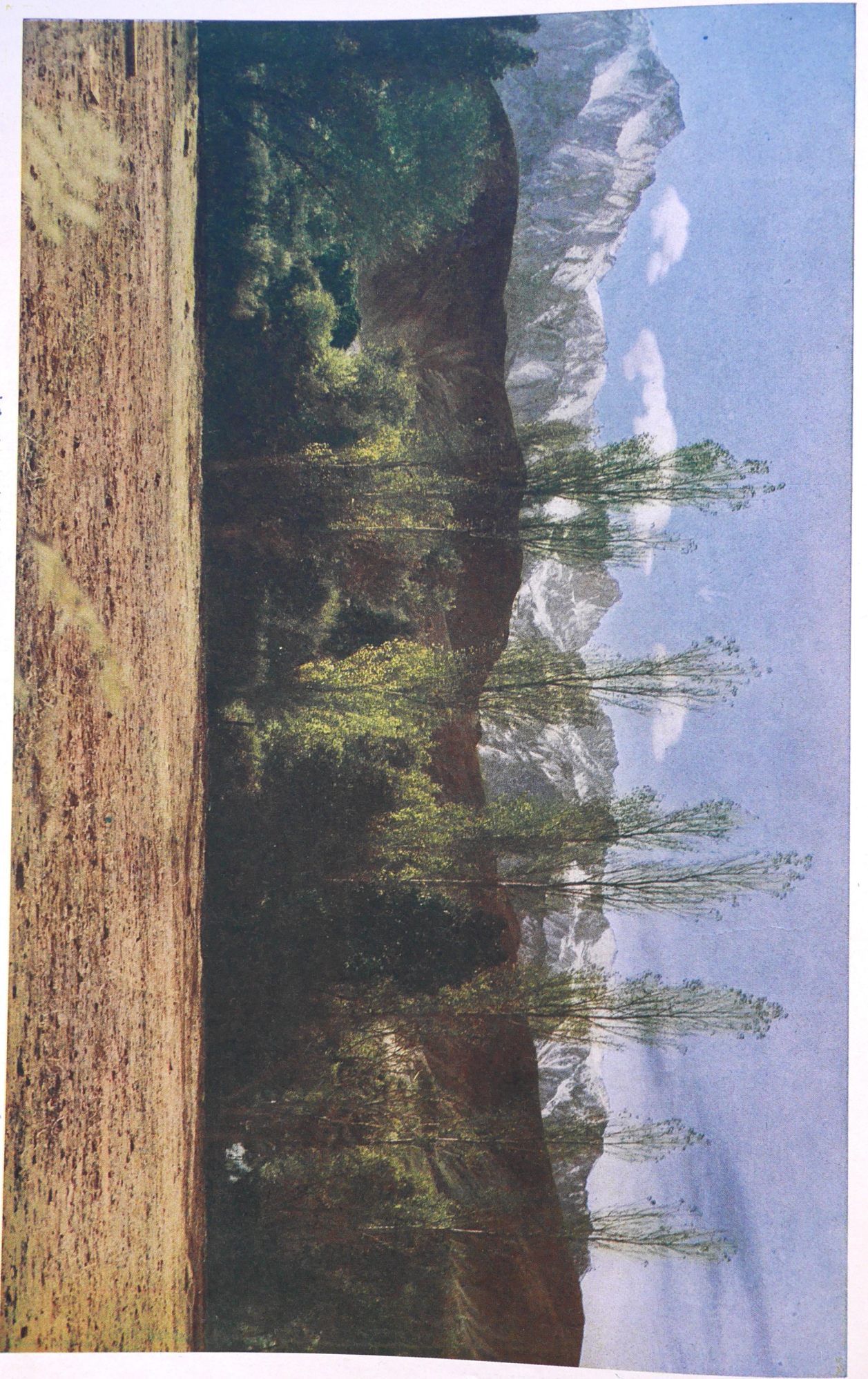
AIR
LINES

アメリカ最新のアルミニユーム列車

海外ニュース

何といつてもスピード時代です。スロー、モーションは今時はやりません。殊に交通機關ではそれが著しく一分でも早い方が尊ばれます。そこで各國の鐵道會社では競つて速い列車を作つてゐます。我が國でも燕とか、富士とかいふ特急がありますが、それではまだ〲遲いといふので、東京——大阪間を五六時間でフッ飛ばす様な超々特急をこしらへるとかいふ話がありましたが、まだ實現してゐません。然しもう、ドイツやアメリカあたりでは、そういふ超スピードの彈丸列車が既に製作されてゐます。アメリカのユニオン、パシフイック會社でこしらへた流泉型の彈丸列車は、昨年の十二月號に掲載いたしましたがシカゴのプルマンカー製造會社でも、この程アルミニューム製の彈丸列車をこしらへました。これは現在この種の列車の中でも一番輕くて、一番速いといはれてゐます。車輛は全部アルミニュームで製作されてゐます。型はやはり流泉型ですが、その速力は驚く勿れ一時間百廿哩といふのです。東京から大阪まで三時間もあれば優に行かれるといふわけです。これなら飛行機と競爭してもひけをとる心配はありません。此處に掲げたのはそのプルマンカー會社の新彈丸列車で、(右頁)——はその內部です、座席は超スピードに調和する様に出來てゐて、その數は一客車に六十位、空氣は清淨装置によつて常に清澄される様になつてゐます。食堂車の設けはありませんが、前列の椅子に設けられた臺を引き出してその上で自由に取ることが出來ます。(左頁上圖)——はその全景(左頁下圖)は同列車から旅客が降りるところ、こゝの階段は自動的に展開し又は疊込む装置になつてゐます。

廻轉盤一つで何處の放送も聞かれるラヂオ機

回轉盤をグルッと回すだけで、どこの放送でも聞かれるといふ至極重寶なラヂオ器械が出來ましたこれはアメリカの一技師によつて發明されたもので、內部は勿論精巧複雜な構造にはなつてゐますけれども、調節する回轉盤は自動式電話器の回轉盤にそつくりで、實に簡單明瞭なのです。その方法も電話器と同じことで、盤を右の方へ指止めまで回せばそれでよいのです。これなら誰にでも出來ることで、これ以上簡單にすることは出來ません。

現在の所で、この器械によつて約五十ケ所の放送はキヤツチすることが出來るそうですが、發明者はもつと〳〵精巧なものにして、全世界の放送が全部キヤツチ出來る樣にすると力んでゐるさうです。寫眞は實驗中のところで、手にもつてゐる小さい圓い盤がそれです

カリフォルニヤは米國の太平洋岸の南半を占め、太平洋を隔てゝ遙かに我が日本に對つた位置にあり、氣候溫和で地味肥え、米國西海岸の樂園といはれてゐます。この州の東側ネヴアダ州との境に海拔一萬數千メートルに達するシエラ・ネヴアダ山系が南北に連つて居り、米國最高の峻嶺として知られてゐるホイツトニーもこの中に聳えてゐます。この山系と海岸山系との間の中部平原は、土地が乾燥して草原的ですがシエラ・ネヴアダの山腹に至りますと、海岸山系の頂きより數千メートルも高いので、海風をうけて雨雪多く、樹木が鬱蒼として茂つてゐます。寫眞は山腹からみたシエラ・ネヴアダ山系で、高嶺は四時雪を戴いてゐます。中央の尖峯が主峯ホイツトニーです。

トーキーに納まる松岡洋右氏

我が日本が國際聯盟を脱退してからもう一年——、當時我が九千萬同胞の信頼と期待を一身に擔ふて遠くジユネーヴに使し、國際聯盟會議の檜舞臺で、列國代表を向ふに廻し孤立無援の中に堂々の論陣を張つて一歩も讓らず、而も悠々としてよく大國の襟度を保ちつゝ重任を果した松岡洋右氏は、昨年四月歸朝して以來、國家内外の非常時に深く鑑みるところあり、氏自身の政治的去就についても熟慮した結果、遂に舊臘、政黨解消を叫んで政友會を脱黨し、代議士をも辭した。爾來同氏は、獨りこの非常時に對處するために孤軍奮鬪してゐるが、日本が聯盟を脱退してからの内外の情勢は、氏の所論と同うしてゐるので氏は四月四日麴町の自邸で、フオツクスのトーキーに納まり、これ等の經過及び所論について大いに辯ずるところがあつた。

寫眞はトーキーに納まる松岡氏

皇太子殿下 三殿に初の御參拜

皇太子殿下が宮中賢所、皇靈殿、神殿に初めて御參拜遊ばさる御盛儀は、四月五日の吉辰午前十時卅分から執行せられた。

この朝皇太子さまには羽二重の純白な御服を召され、伊知地御養育掛に抱かさせられて皇子室を御發、儀裝馬車に召され、津輕女官御陪乘申上げて御進發各皇族殿下をはじめ奉り、湯淺宮相、鈴木侍從長、本庄侍從武官長以下宮内省の各部、局長官等御迎へ申上げるうちを十時廿分賢所東門から御拜所に進ませられ、三條掌典長恭しく祝詞を奏し奉れば、皇太子さまには御拜、次いで皇靈殿及び神殿にも御同樣御參拜遊ばされて、めでたく御儀を終へさせられ、同十時四十分賢所を御發、還啓遊ばされた。

寫眞は東御車寄を御進發の皇太子殿下の鹵簿—宮内省御貸下—

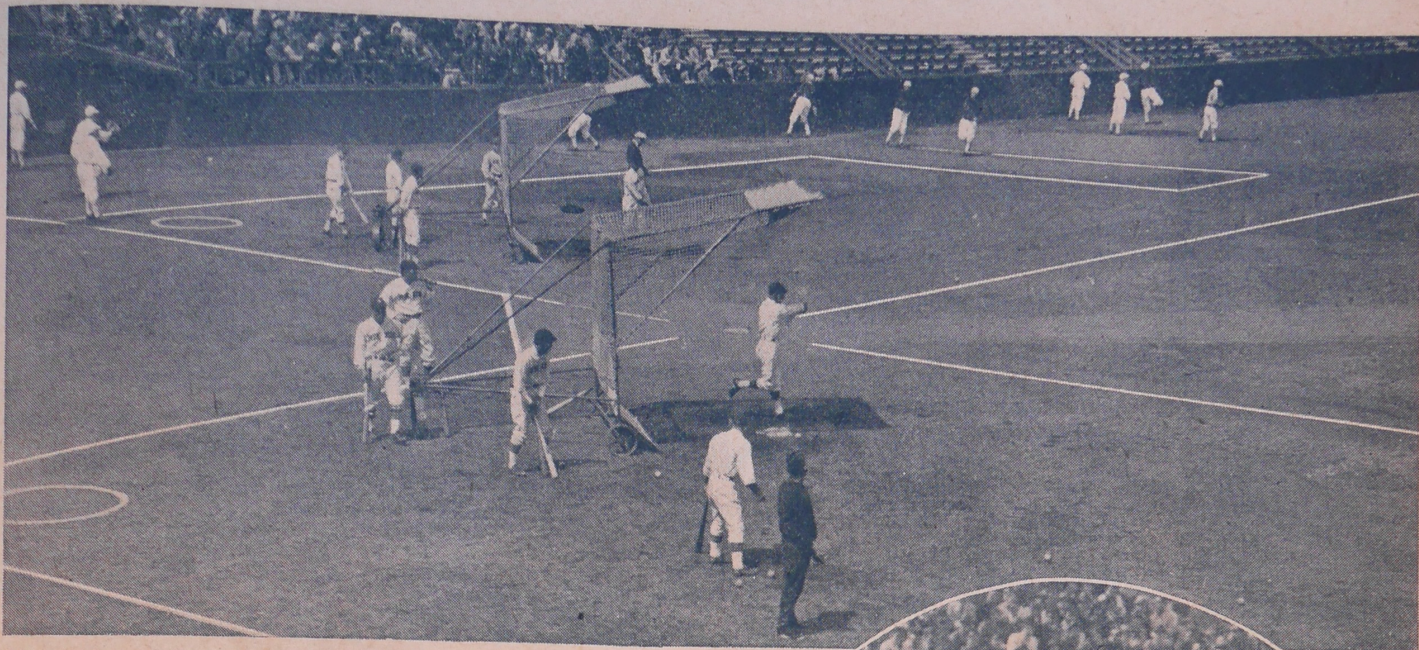
各宮殿下 奉祝演奏會御成り

天皇、皇后兩陛下御成婚十周年と併せて皇太子殿下御誕生を奉祝する東京音樂學校の特別大演奏會は、三月十七日午後一時半から同校に於て開催された。秩父宮妃、東伏見宮妃、閑院若宮妃、李王同妃、李鍵公同妃の各宮殿下御台臨あらせられ、筑波侯夫妻、葛城伯夫妻、齋藤首相夫妻、山本内相夫妻等を始め朝野名士並に樂壇關係者四百餘名來場して盛大であつた。

（上圖）御台臨の各宮殿下——右より李王妃、李王、秩父宮妃東伏見宮妃、閑院若宮妃殿下

上海御寄港の賀陽宮兩殿下

三月九日東京驛御出發、歐米御視察の途に上らせられた賀陽宮、同妃兩殿下には三月十二日上海に御寄港遊ばされた。

（下圖）は同夜船上で催された有吉公使主催の御歡迎宴に御成りの兩殿下で左より御二人目が賀陽宮殿下、右側二人目有吉公使、妃殿下

スポーツの華開く

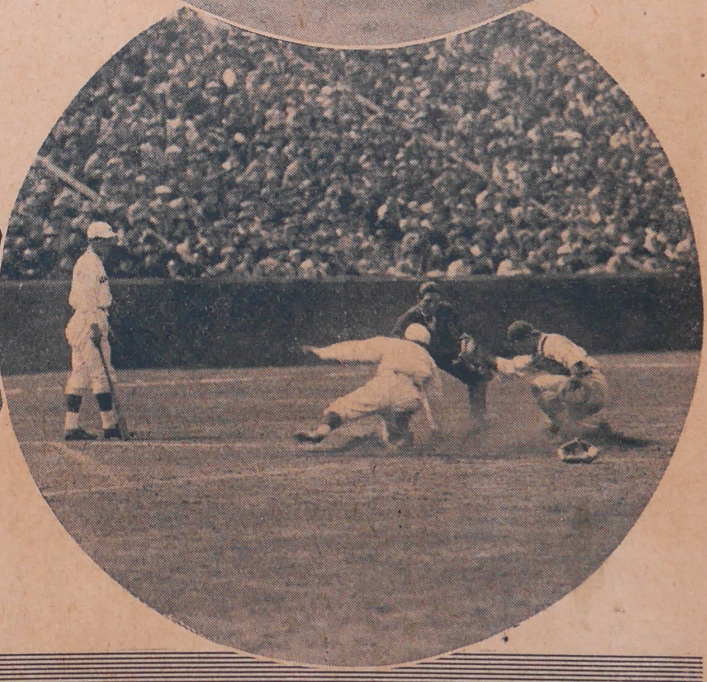
六大学野球極東大会詮衡試合——

春のスポーツの華、六大學野球戰は、四月七日正午から明治神宮球場で、帝立、慶明の二試合で開幕された。この試合は極東大會への詮衡試合でリーグ戰の名のつかないもので人氣薄ではあつたが、何しろファンは長い冬眠にしびれを切らしてゐただけに、試合開始前に觀衆はスタンドの半ば近くを埋め盡した

（上圖）帝立のフリーバッテング

（中圖）慶明第一回戰、三壘にあつた慶大中村君、碣石君の二飼で本壘をついてアウト

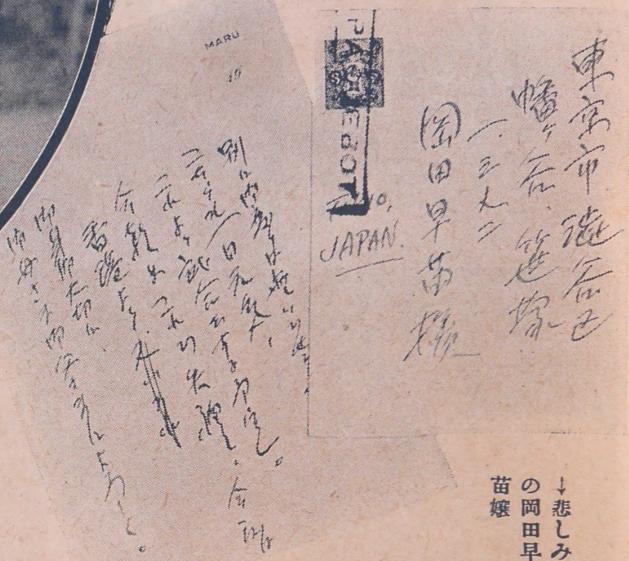
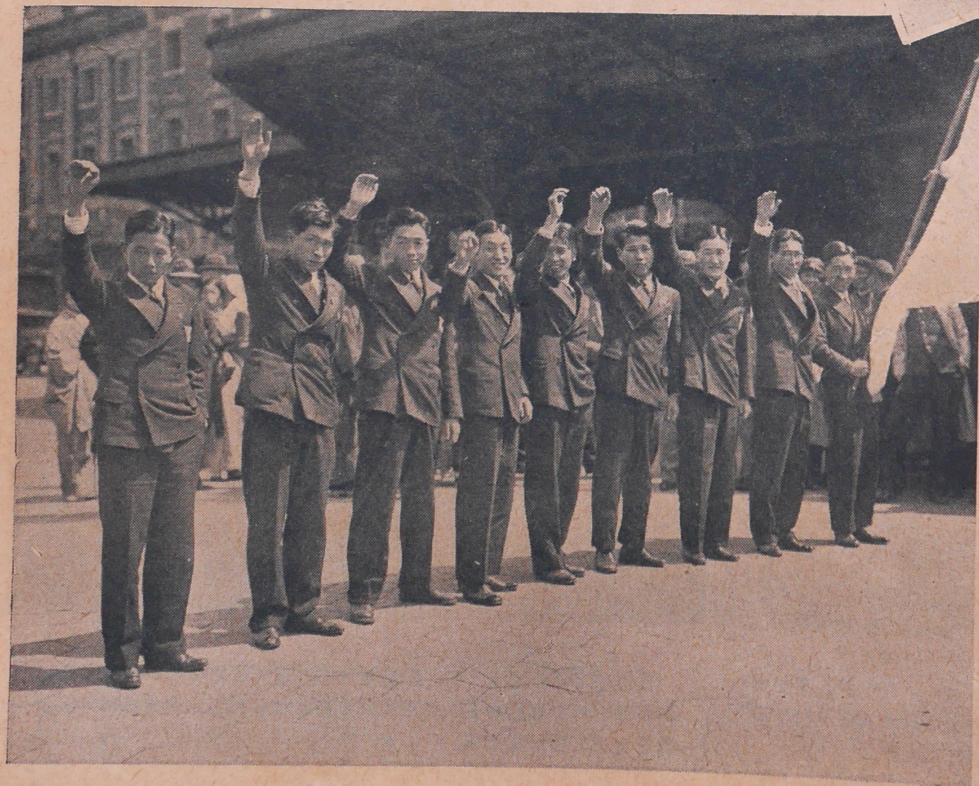
（下右）早法戰五回表、早大高須君、本壘成らずアウト

（下左）慶帝戰一回表、慶應の本田君二盜成る

庭球日本の至宝 佐藤次郎選手自殺

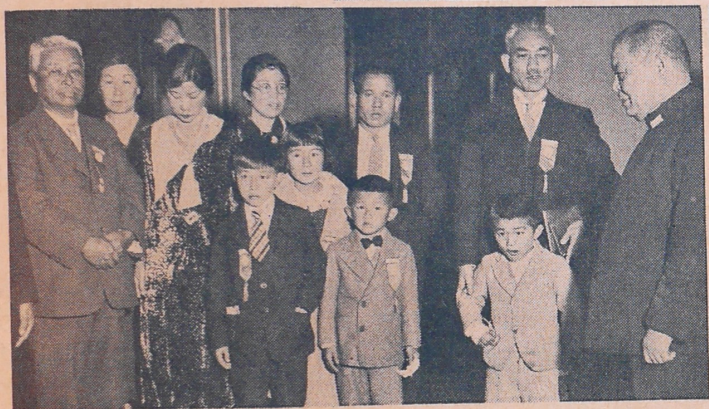
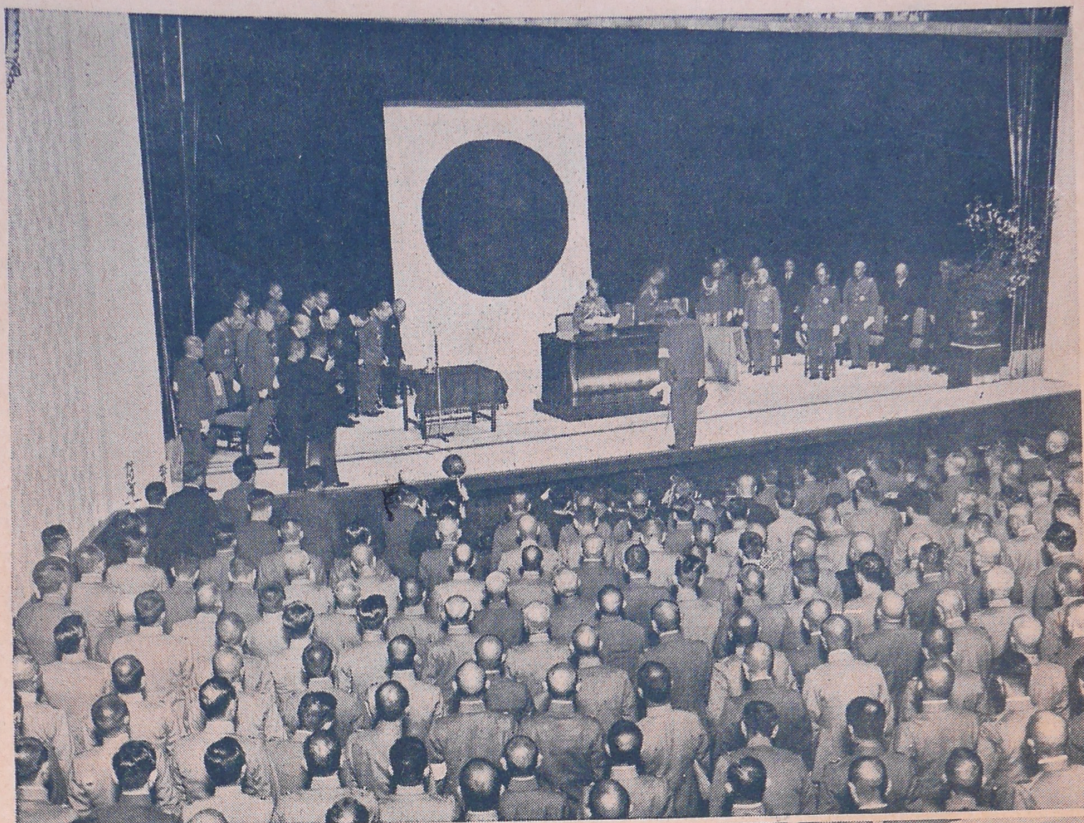
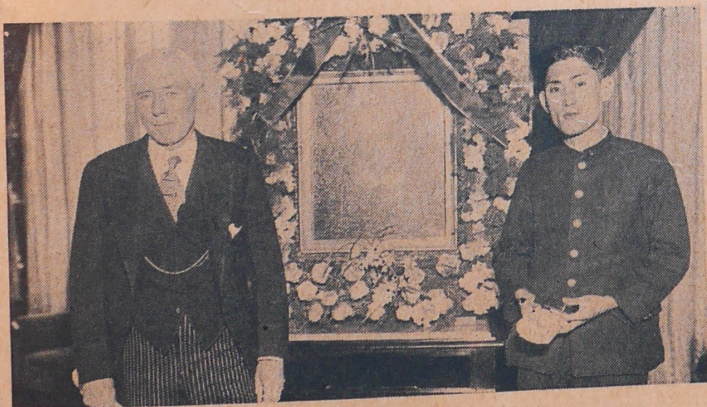
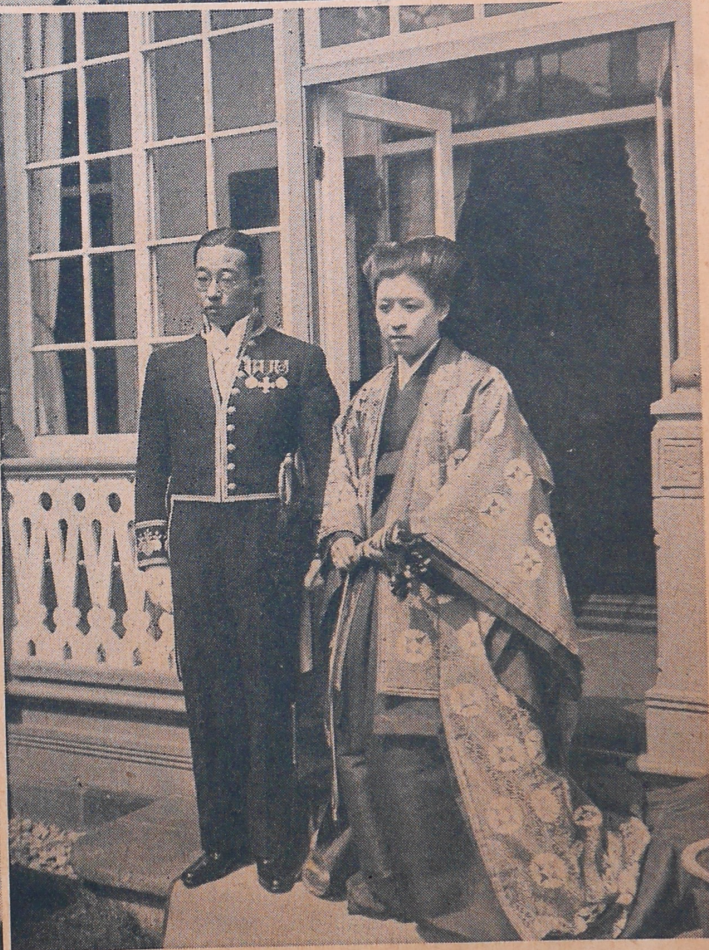
庭球日本の至寶、否世界庭球界の至寶佐藤次郎選手は、渡歐の途中、マラッカ海峽において投身自殺を遂げた。その原因は神經衰弱の昂じたものだといはれてゐる。佐藤選手の過去の華やかな戰跡については今更こゝに記すまでもなく餘りに有名だ。今年は健康上辭退してゐたが庭球協會とファンの熱烈な出場要望に固辭し切れず、死力を盡して戰ふべく、山岸、西村藤倉の三選手と共に遠征の途についたのであつたが遂に歸らぬ旅路へ上つてしまつた。まことに惜しみても餘りあることである。(上左)佐藤選手の最後のフォーム――送別試合で(上右)上海から愛人岡田早苗孃に送つた最後の葉書

東京市澁谷区
幡ヶ谷笹塚
一三九二
岡田早苗様
JAPAN

↓悲しみの岡田早苗孃

輝かしい戰蹟を土産に 学生スキー選手歸朝

萬國學生スキー選手權大會に參加して輝かしい記錄を殘した我が學生代表選手團宮川恒夫監督、三澤マネヂャー以下、木越逸見、四谷、栗山、清水、竹内佐々木等七選手は、四月七日午前十時十五分東京驛著列車で盛大な歡迎裡に歸朝した。(下左)東京驛著の一行。

閑院総裁宮殿下の台臨を仰いで軍人公館の落成式

總工費二百五十萬圓を以て、九段牛ヶ淵公園に建築中であつた軍人會館の落成式は、三月廿五日午前十時から閑院總裁宮、梨本元帥宮、朝香宮三殿下の台臨を仰ぎ、林陸相、大角海相をはじめ、陸海軍諸將星及び在郷軍人代表千六百餘名參列のもとに盛大に擧行された。

寫眞は御令旨を賜ふ閑院總裁宮殿下

母國の花を訪れて、ロサンゼルス及びハワイから來朝した邦人觀光團の第二世達は、四月六日パパさんやママさんに連れられて海軍省に大角海相を訪問した。寫眞は海相を訪問した一行

ロンドンの日本協會から寄贈のシエクスピア・メダルは、本年度は帝大文學部イギリス科學生前川仙一君に授與されることゝなり三月十五日帝大圖書館記念室において授與式が行はれた。

竹田宮禮子女王殿下と、佐野常羽伯の嗣子常光氏との御婚儀は、三月廿六日の吉辰をトしてめでたく行はせられた。寫眞は御降嫁の禮子女王と佐野常光氏

陸軍省の新道場落成

武士道精神高揚のため、荒木前陸相が主唱して陸軍省内に建設中であつた劍道々場は漸く完成したので、三月十七日午後一時から林陸相、柳川次官、石井參與官其の他將星多數出席の上道場開きの劍道大會を開催した。移靈祭、齋主の修祓、林陸相の玉串奉献等後省内の紅白試合及び戸山學校、皇道義會の選士、女流薙刀選士の模範試合等あり、盛會であつた。寫眞は薙刀の片石朝子女史と宮本厚一氏の試合

昨年八月以來、歐米各國に、國際親善の旅をつゞけてゐた德川家達公は、四月五日午後二時横濱入港の郵船龍田丸で歸朝した。寫眞は船上の德川公と、同伴の令孫豐子孃

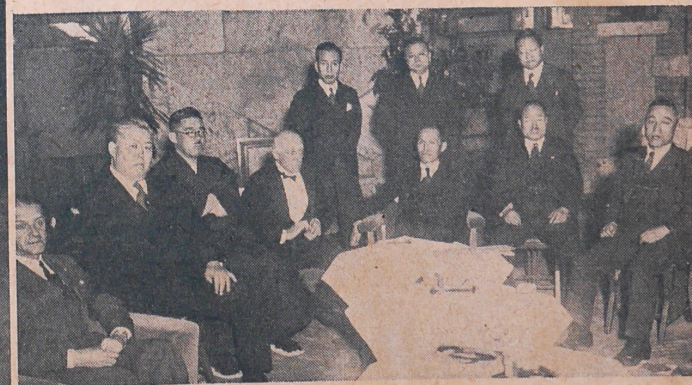
釋尊の誕生を祝ふ『花まつり』は本年は、皇太子殿下の御降誕を奉祝して、四月八日都下各宗聯合の下に、日比谷公會堂で例年よりも一層盛大に催された。寫眞は『花まつり』に乘込む稚兒さん

アメリカ映畫ファンにお馴染のワーナー社の珍優ジョー・E・ブラウンとマーヴィン、ルロイ監督夫妻は櫻咲く日本を慕つて四月六日來朝した。寫眞は出迎への踊り子に取卷かれた兩君、左がブラウン

血盟團事件のやり直し公判開かる

一昨年の早春總選擧の渦中に元藏相井上準之助氏を、次いで團琢磨男を暗殺し、なほも政界財界の大立物十數名をつけ狙ひ昭和維新を目指し一人一殺主義の恐るべき陰謀を企てたいはゆる血盟團事件の裁判は中途で忌避問題を起して挫折してゐたが、酒卷前裁判長係りの公判後滿八ヶ月目の三月廿七日東京地方裁判所で藤井裁判長、居森、伊能、長谷部三陪席判事、木内、岸本兩檢事立會の下に、やり直し第一回公判が開かれた。（寫眞は當日の法廷）

常夏の國、マレー半島の南端ジョホール國の王様サルタン、イブラヒム同妃兩殿下には四月二日入京、同四日午前十時リンドレー英大使同伴宮中に參內、天皇陛下に謁見あらせられた。寫眞は帝國ホテルより參內のジョホール國王、右は德川義親侯

國際聯盟事務局次長シエルマン、モーレツト氏は、支那視察の歸途四月四日朝入京した。寫眞は向つて左から杉村陽太郎氏、モーレツト氏、岸外相秘書官

第十二回オリムピック大會を東京に開催すべく着々準備を進めてゐる東京市では、三月十五日午後五時半から帝國ホテルに駐日白國大使バッソンピエル氏を招待して種々懇談した。寫眞は左からドウレーヌ大佐、杉村陽太郎氏、辰野氏、ベルギー大使、牛塚市長

本誌御購讀の方へ

◆本社名を以て金錢上その他如何はしき申出を爲した者がありましたら、御手數でも一應本社へ直接御照會下さるようお願ひします。近來本社名を利用して種々不都合をなすものがある由ですから特に御注意下さい。

◆本誌配本上其他に付不都合の行爲がありましたら、東京市內は表紙取扱欄に押捺してある番號により、又地方は必ず住所氏名を記載した取扱者の印を押捺させることになつてゐますからそれによつて直接本社へ御申出で下さい。

◆本誌は遲くも每月十日迄に配本せぬような場合は本社へ御通知下さい。早速便宜の方法で御送りします。

◆本誌は書店で賣らぬことになつてゐますから購讀御希望の方は直接本社に御申込下さるか、全國各地の支局に御申込下さい。

◆本誌の誌代はすべて配本の際引換えに頂く規定になつてゐますが、前金を御拂込下さる際は直接本社宛に願ひます。本社宛直接御拂込以外は一切責任を負ひませんから御承知おき下さい。（御送金は振替東京四五〇〇番を御利用下さることが一番確實です）

定價

一部金六拾錢（送料二錢）
一ケ年分　金六圓
（一月極金五拾錢）
海外一部送料　金十錢

無斷轉載複製を禁ず

昭和九年四月二十五日印刷納本
昭和九年五月一日發行

東京市麴町區內幸町一ノ三
發行、編輯兼印刷人　石原俊明

東京市麴町區內幸町一ノ三
印刷所　國際製版印刷所

東京市麴町區內幸町一ノ三
太平ビル別館
發行所　國際情報社
振替東京四五〇〇番
電話銀座（一一八六）（一一六〇六）

THE PICTORIAL WORLD

【世界畫報】
大正十五年十一月十日第三種郵便物認可 毎月一日發行
昭和九年四月二十日印刷納本 昭和九年五月一日發行

VOL. 10. MAY NO. 5

PUB. BY KOKUSAI JOHO SHA TOKYO JAPAN